

# 地域福祉に関する市民意識調査

## 報告書

令和3年(2021年)7月

芦屋市



## 目 次

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査目的 .....	1
2 実施概要 .....	1
3 報告書の見方 .....	1
<b>II 調査結果</b> .....	<b>3</b>
1 回答者自身について .....	3
2 地域との関わりについて .....	19
3 福祉の相談先や制度について .....	29
4 地域福祉の推進について .....	37
5 自由意見 .....	50
<b>資料編</b> .....	<b>55</b>
調査票見本 .....	55



# I 調査の概要

---



## 1 調査目的

本調査は、令和4年度（2022年度）からの「第4次芦屋市地域福祉計画」の策定にあたり、市民の地域との関わり状況や、地域福祉活動に関する考え、市の施策に対する意見などについて把握するとともに、次期計画の基礎資料とすることを目的とする。

## 2 実施概要

### (1) 調査対象

芦屋市に在住の18歳以上の方 3,000人（住民基本台帳から無作為抽出）

### (2) 調査期間

令和3年2月5日（金）～令和3年2月26日（金）

### (3) 調査方法

郵送調査（郵送配布、郵送・持参またはインターネットによる回収）

### (4) 回収結果

配布数	:	3,000	
有効回収数	:	全体	1,620（有効回収率：54.0%）
		（内訳）郵送・持参	1,234
		インターネット	386

## 3 報告書の見方

- (1) 図表中の「n (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表している。
- (2) 回答結果の割合「%」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものである。そのため、単一回答であっても合計値が100.0%にならない場合がある。また、項目同士を合算する際は、回答実数を合算した上で割合を算出しているため、図表上の数値（割合）を合算した値と異なる場合がある。
- (3) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示している。そのため、合計が100.0%を超える場合がある。
- (4) 図中に以下の表示がある場合は、複数回答を依頼した質問を示している。
  - ・ MA % (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
  - ・ 3 LA% (3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
- (5) 設問により、性別、年齢別、家族構成別、居住地域別などの集計結果についても、併せて掲載している。また、平成28年度に実施の前回調査と比較可能な一部の設問においては、前回調査の結果との比較を行っている。





## II 調查結果

---

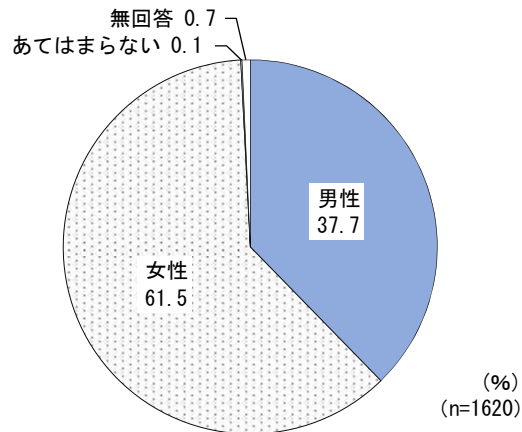


## 1 回答者自身について

### (1) 性別

問1 あなたの性別は。

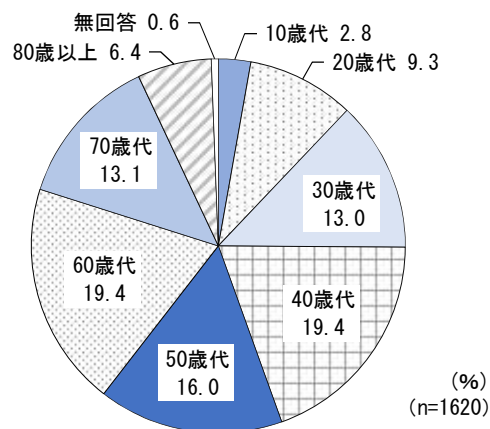
回答者の性別としては、「男性」が37.7%に対し、「女性」が61.5%となっている。



### (2) 年齢

問2 あなたの年齢は。

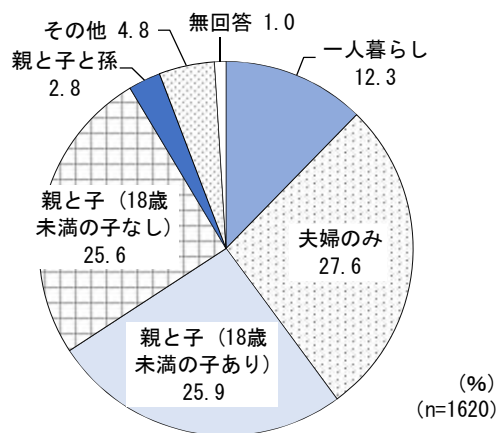
回答者の年齢としては、「40歳代」「60歳代」がともに19.4%と最も多くなっており、次いで「50歳代」が16.0%となっている。また、40歳未満は25.1%、70歳以上は19.5%みられる。



(3) 家族構成

問3 あなたの同居されている家族構成は。

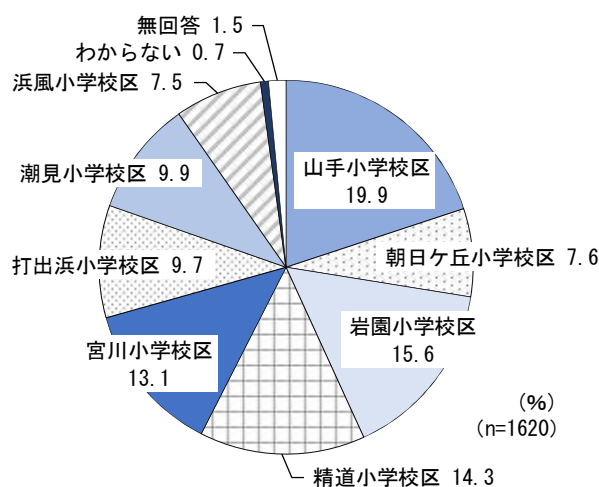
家族構成としては、「夫婦のみ」が27.6%と最も多く、次いで「親子（18歳未満の子あり）」が25.9%、「親子（18歳未満の子なし）」が25.6%、「一人暮らし」が12.3%となっている。「親子と孫」の三世代同居は2.8%と少ない。



(4) 居住地域（小学校区）

問4 あなたは、現在どちらの小学校区にお住まいですか。

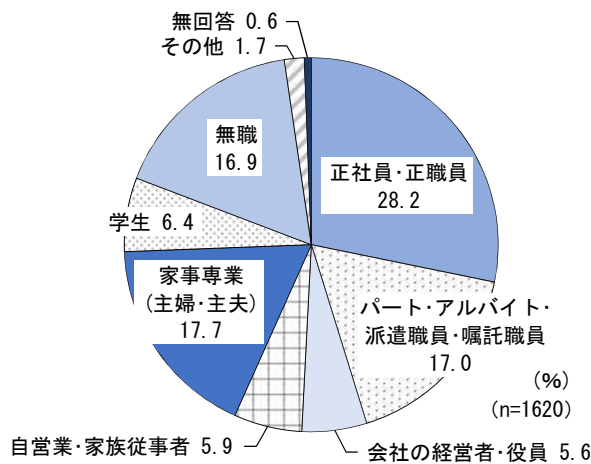
現在住んでいる小学校区としては、「山手小学校区」が19.9%と最も多く、次いで「岩園小学校区」が15.6%、「精道小学校区」が14.3%、「宮川小学校区」が13.1%となっている。



(5) 就労状況

問5 あなたのお仕事は何ですか。

現在の仕事（職業）としては、「正社員・正職員」が28.2%と最も多く、次いで「家事専業（主婦・主夫）」が17.7%、「パート・アルバイト・派遣職員・嘱託職員」が17.0%、「無職」が16.9%となっている。



年齢別にみると、10歳代は「学生」、20歳代から50歳代は「正社員・正職員」、60歳代は「家事専業（主婦・主夫）」、70歳代と80歳以上は「無職」が最も多くなっている。

【年齢別 就労状況】

	調査数	正社員・正職員	パート・アルバイト・派遣職員・嘱託職員	会社の経営者・役員	自営業・家族従事者	家事専業 (主婦・主夫)	学生	無職	その他	無回答
10歳代	45	2.2	2.2	0.0	0.0	0.0	<b>88.9</b>	4.4	2.2	0.0
20歳代	151	<b>43.7</b>	6.6	0.7	0.7	3.3	41.1	2.6	1.3	0.0
30歳代	210	<b>51.4</b>	16.2	3.8	5.2	20.0	1.0	1.9	0.5	0.0
40歳代	315	<b>44.1</b>	26.7	6.3	6.0	11.7	0.0	3.5	1.6	0.0
50歳代	259	<b>39.0</b>	22.8	5.8	7.7	17.0	0.0	6.2	1.5	0.0
60歳代	315	12.4	21.9	10.5	8.9	<b>23.8</b>	0.0	21.0	1.3	0.3
70歳代	213	0.9	8.5	5.2	6.6	32.9	0.0	<b>42.7</b>	2.8	0.5
80歳以上	103	0.0	1.0	2.9	2.9	11.7	0.0	<b>76.7</b>	3.9	1.0

※集計表の凡例について

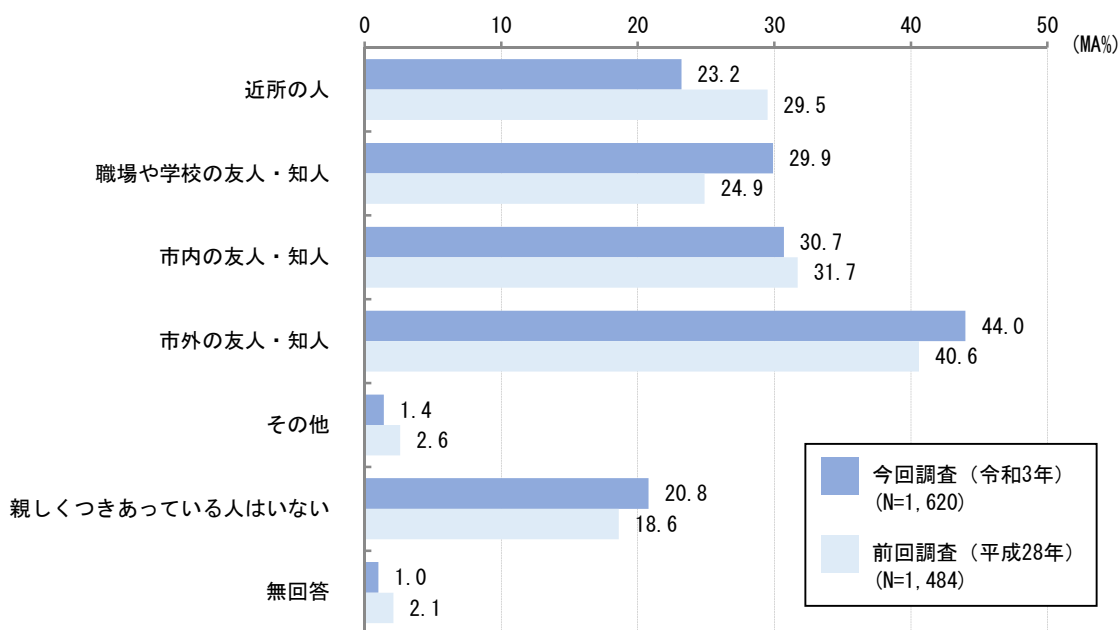
1位	…その属性で最も多い項目
2位	… “ 2番目に多い項目
3位	… “ 3番目に多い項目 以下同様

(6) 親しくつきあっている人

問6 あなたは、家族や親族以外で親しくつきあったり、困ったときには助け合える人がいますか。  
 <複数回答>

家族や親族以外で親しくつきあっている人としては、「市外の友人・知人」が44.0%と最も多く、次いで「市内の友人・知人」が30.7%、「職場や学校の友人・知人」が29.9%、「近所の人」が23.2%となっている。一方、「親しくつきあっている人はいない」は20.8%みられる。

前回調査（平成28年）と比較すると、「職場や学校の友人・知人」が5.0ポイント、「市外の友人・知人」が3.4ポイント増加し、「近所の人」が6.3ポイント減少している。



性別にみると、「親しくつきあっている人はいない」が女性で17.4%に対し、男性では26.7%と高くなっている。また、「近所の人」が女性で26.1%みられるのに対し、男性では18.7%と低い。

【性別 親しくつきあっている人】

		(MA%)						
	調査数	近所の人	職場や学校の友人・知人	市内の友人・知人	市外の友人・知人	その他	親しくつきあっている人はいない	無回答
男性	610	18.7	33.9	23.8	<b>39.7</b>	1.0	26.7	0.5
女性	997	26.1	27.9	35.3	<b>46.7</b>	1.7	17.4	0.7

年齢別にみると、「親しくつきあっている人はいない」が80歳以上で38.8%と最も高く、30～70歳代で2割前後となっている。また、「近所の人」が70歳代で37.1%、80歳以上で36.9%と高く、20歳代で13.2%、10歳代で8.9%と低い。

【年齢別 親しくつきあっている人】

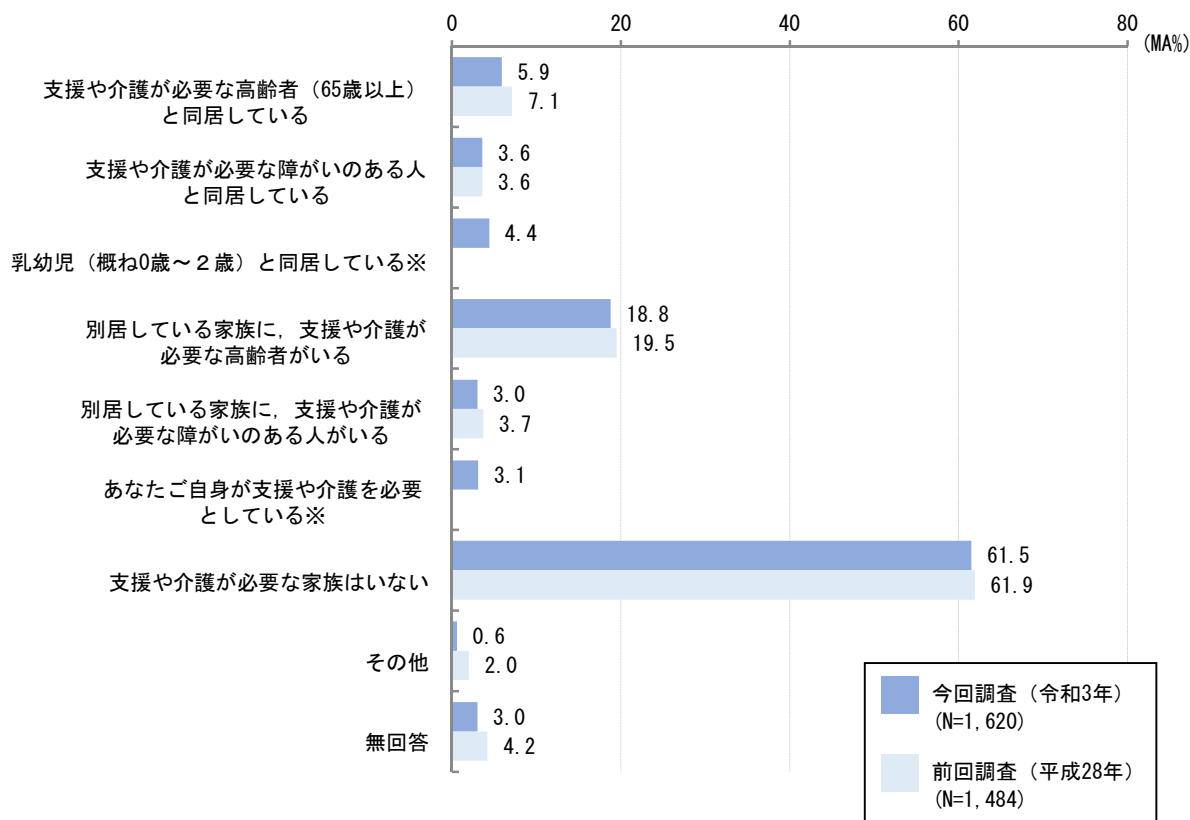
		(MA%)						
	調査数	近所の人	職場や学校の友人・知人	市内の友人・知人	市外の友人・知人	その他	親しくつきあっている人はいない	無回答
10歳代	45	8.9	<b>55.6</b>	33.3	37.8	0.0	6.7	2.2
20歳代	151	13.2	51.0	24.5	<b>54.3</b>	0.7	7.9	0.7
30歳代	210	17.6	39.0	25.7	<b>47.6</b>	1.4	20.0	0.0
40歳代	315	22.2	38.1	34.3	<b>45.7</b>	1.0	19.7	0.0
50歳代	259	17.0	33.6	32.0	<b>47.1</b>	1.2	22.0	0.0
60歳代	315	26.3	23.2	29.2	<b>43.8</b>	2.5	23.8	1.0
70歳代	213	37.1	7.0	39.0	<b>39.9</b>	1.9	21.6	0.9
80歳以上	103	<b>36.9</b>	4.9	24.3	21.4	1.0	38.8	2.9

(7) 支援や介護が必要な家族の状況

問7 あなたの家族に、日常生活の支援や介護が必要な方はいますか。 <複数回答>

家庭内に、支援や介護が必要な家族（自身を含む）がいるという割合（「支援や介護が必要な家族はいない」及び無回答を除いた割合）は全体の4割台（41.5%）となっている。具体的には、「別居している家族に、支援や介護が必要な高齢者がいる」が18.8%と多く、次いで「支援や介護が必要な高齢者（65歳以上）と同居している」が5.9%となっている。

前回調査（平成28年）と比べて、ほとんど傾向は変わっていない。



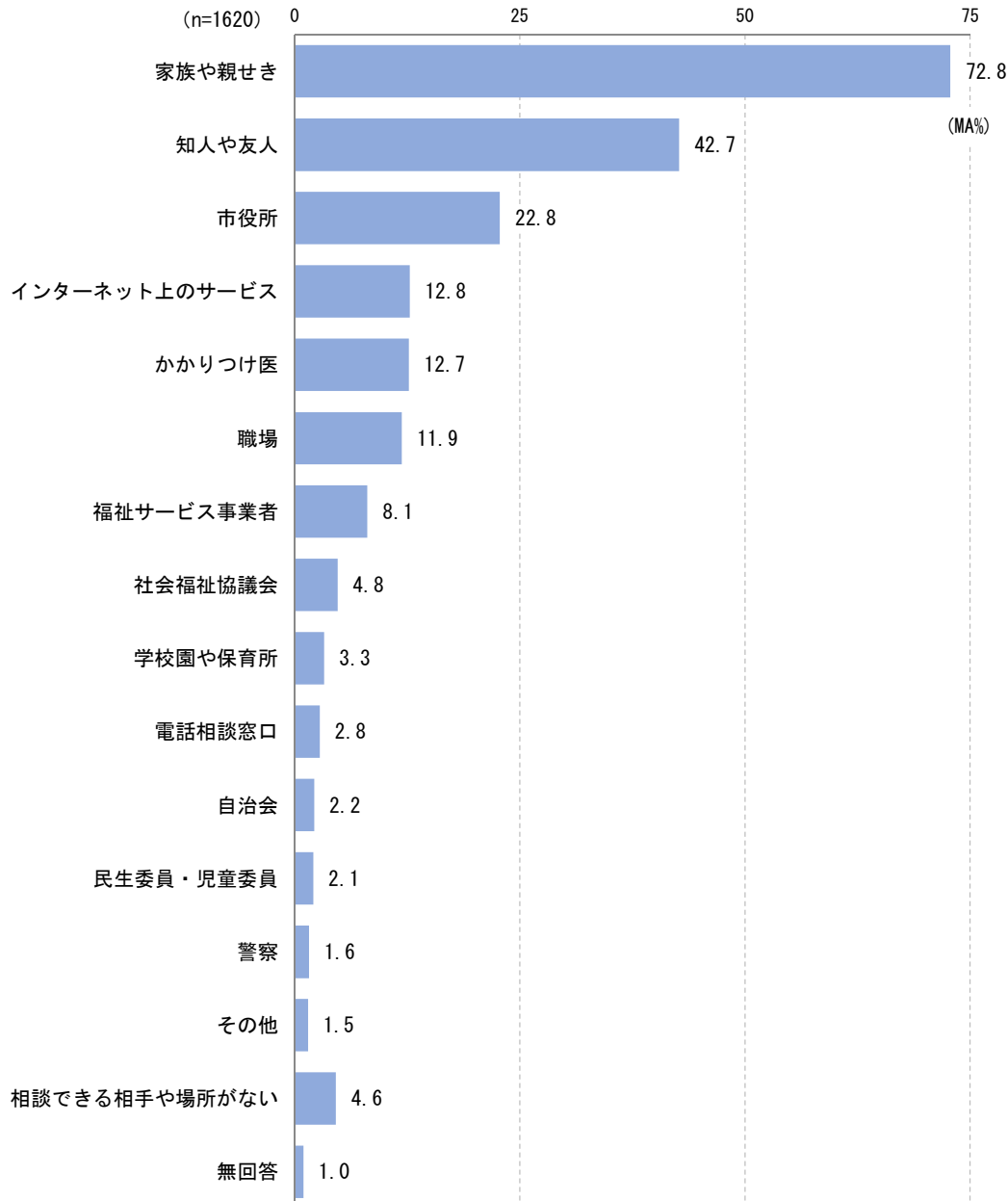
※前回調査では、選択肢なし



## (8) 困りごとなどの相談先

問8 あなたが暮らしの困りごとや福祉サービスのことなどで相談するのはどこ(どなた)ですか。  
 <複数回答>

暮らしの困りごとや福祉サービスのことなどの相談先としては、「家族や親せき」が72.8%と最も多く、次いで「知人や友人」が42.7%、「市役所」が22.8%となっている。



性別にみると、男女ともに「家族や親せき」が最も多く、女性で75.4%、男性で69.3%となっている。また、これに続くのが「知人や友人」となっており、男性で33.9%に対し、女性では48.3%と高い。

【性別 困りごとなどの相談先】

	調査数	家族や親せき	知人や友人	市役所	インターネット上のサービス	かかりつけ医	職場	福祉サービス事業者	社会福祉協議会	学校園や保育所	電話相談窓口	自治会	民生委員・児童委員	警察	その他	相談できる相手や場所がない	無回答
男性	610	69.3	33.9	26.9	14.8	13.0	11.6	7.2	5.4	2.0	3.6	2.5	1.0	2.1	1.0	6.2	0.8
女性	997	75.4	48.3	20.4	11.6	12.6	12.1	8.7	4.4	4.1	2.3	2.0	2.8	1.2	1.8	3.7	0.4

年齢別にみると、どの年齢層も「家族や親せき」が最も多く、10歳代から30歳代で8割台と高くなっている。次いで「知人や友人」が多く、30歳代で51.4%、40歳代で47.0%と高くなっている。そのほか、「福祉サービス事業者」が60歳代で30.8%、「市役所」が30歳代、40歳代で2割弱、「インターネット上のサービス」が70歳代で18.3%、60歳代、80歳以上で約15%と、他の年齢層より高くなっている。

【年齢別 困りごとなどの相談先】

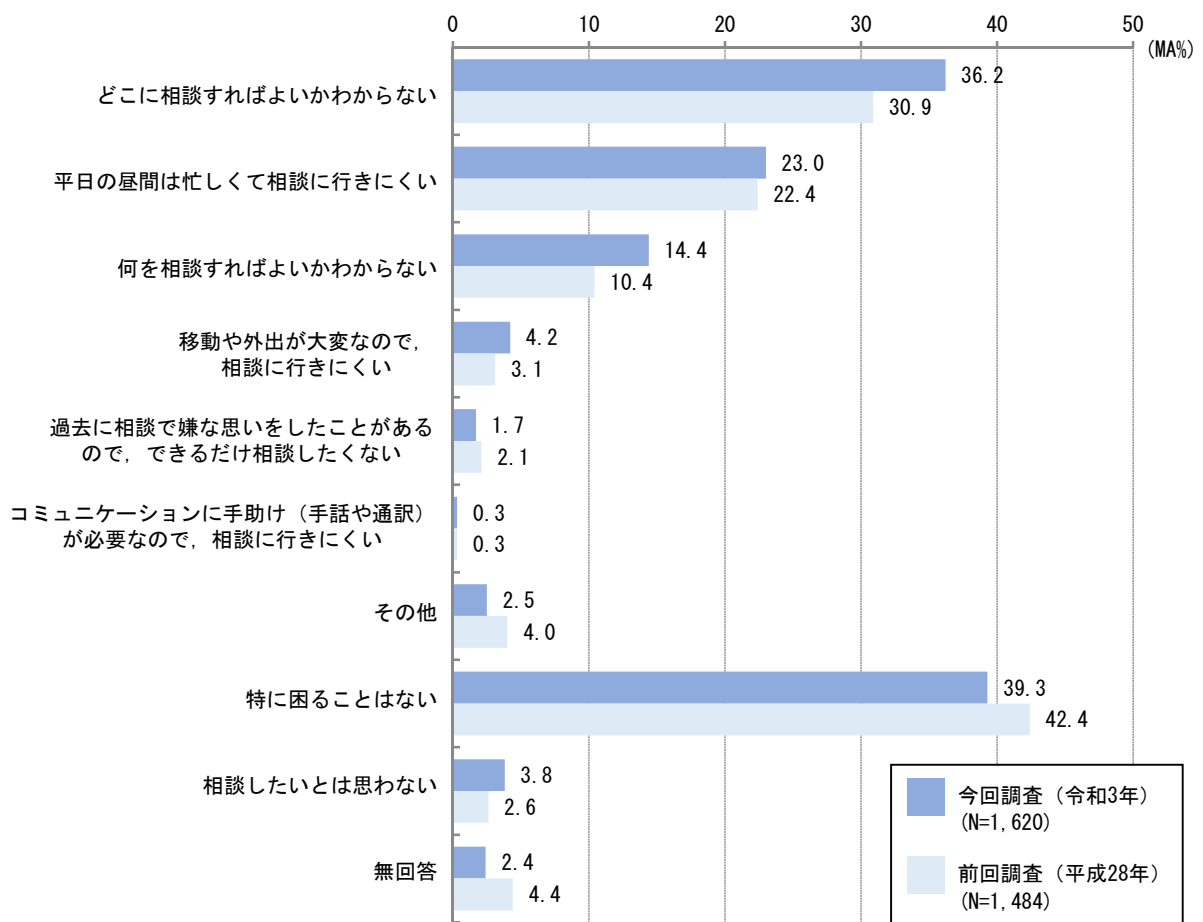
	調査数	家族や親せき	知人や友人	市役所	インターネット上のサービス	かかりつけ医	職場	福祉サービス事業者	社会福祉協議会	学校園や保育所	電話相談窓口	自治会	民生委員・児童委員	警察	その他	相談できる相手や場所がない	無回答
10歳代	45	84.4	42.2	2.2	4.4	0.0	2.2	4.4	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0	4.4	2.2
20歳代	151	83.4	39.1	13.9	7.3	0.7	1.3	17.9	2.6	1.3	2.6	4.6	1.3	19.2	1.3	2.0	0.0
30歳代	210	80.0	51.4	18.1	13.3	1.0	1.4	21.4	3.3	0.5	4.8	10.5	2.4	13.8	0.5	2.9	0.0
40歳代	315	72.1	47.0	19.0	9.5	1.0	1.0	23.5	3.8	1.0	5.4	7.3	3.8	13.0	1.3	4.8	0.3
50歳代	259	73.0	45.6	15.1	12.4	2.3	1.5	23.2	4.6	1.2	12.7	0.4	3.1	14.7	2.7	5.0	0.0
60歳代	315	66.3	44.4	9.5	14.9	2.2	2.2	30.8	6.3	2.5	12.4	0.0	3.5	13.3	2.9	5.7	0.3
70歳代	213	68.1	37.1	1.4	18.3	4.2	6.1	23.9	9.4	2.8	8.5	0.0	2.3	10.3	0.5	4.7	1.9
80歳以上	103	72.8	19.4	0.0	14.6	5.8	1.9	12.6	2.9	1.9	10.7	0.0	2.9	1.0	0.0	7.8	1.9

(9) 相談する際の困りごと

問9 あなたは、暮らしの困りごとや福祉サービスのことなどで相談するとき、困ると思うことがありますか。 <複数回答>

相談する際にいずれかの困りごとがあると回答した人（「特に困ることはない」「相談したいとは思わない」及び無回答を除いた割合）は全体の5割台（54.5%）となっている。具体的な困りごととしては、「どこに相談すればよいかわからない」が36.2%と最も多く、次いで「平日の昼間は忙しくて相談に行きにくい」が23.0%、「何を相談すればよいかわからない」が14.4%となっている。

前回調査（平成28年）と比較すると、「どこに相談すればよいかわからない」が5.3ポイント、「何を相談すればよいかわからない」が4.0ポイント増加している。



年齢別にみると、「どこに相談すればよいかわからない」が40～50歳代で4割台と高く、50歳代で45.2%、40歳代で42.9%となっている。また、20歳代において、「何を相談すればよいかわからない」が25.8%、「相談したいとは思わない」が10.6%と、ともに他の年齢層に比べて高い。

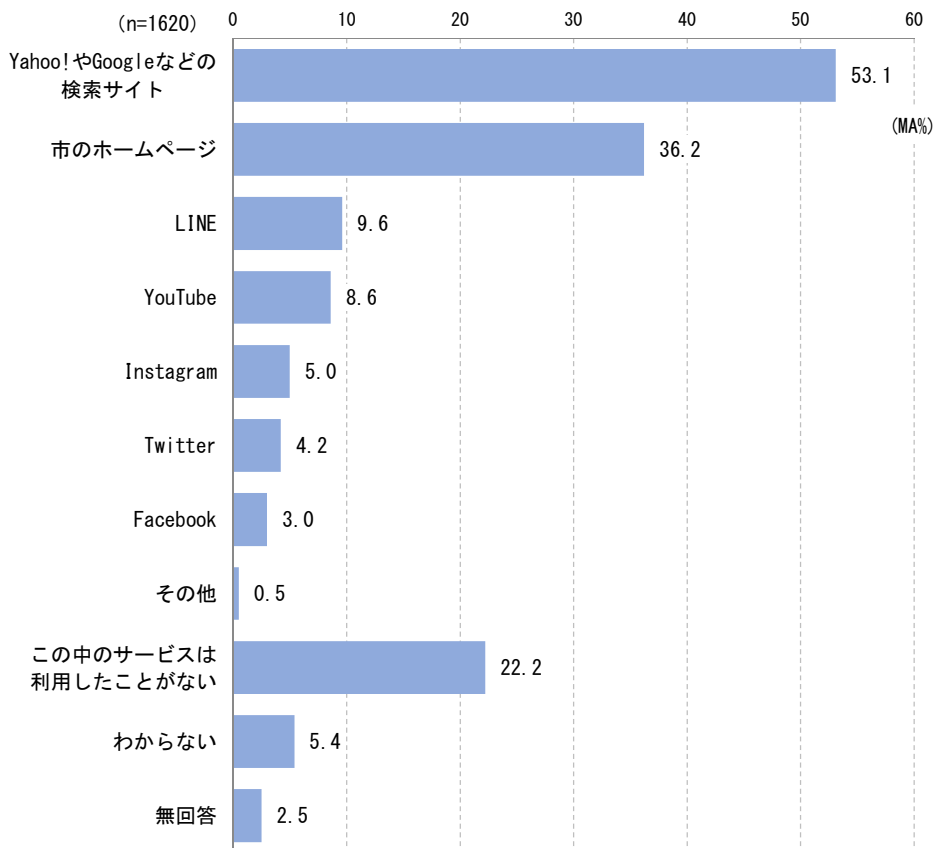
【年齢別 相談する際の困りごと】

(MA%)											
	調査数	いどこに相談すればよいかわからない	平日の昼間は忙しくて相談に行くにくい	何を相談すればよいかわからない	移動や外出が大変なので、相談に行くにくい	過去に相談で嫌な思いをしたことがあるので、できるだけ相談したくない	コミュニケーションに手助け(手話や通訳)が必要なので、相談にいきたくない	その他	特に困ることはない	相談したいとは思わない	無回答
10歳代	45	28.9	4.4	20.0	2.2	0.0	0.0	0.0	53.3	8.9	0.0
20歳代	151	35.1	29.8	25.8	7.3	2.6	0.7	1.3	24.5	10.6	0.7
30歳代	210	37.1	35.2	16.7	7.1	1.9	0.0	1.4	34.8	1.9	0.5
40歳代	315	42.9	37.1	19.4	4.4	1.9	0.0	3.5	30.8	1.3	0.3
50歳代	259	45.2	32.4	14.7	1.9	1.5	0.4	2.3	31.3	1.9	1.5
60歳代	315	34.0	13.0	9.2	2.9	1.3	0.0	2.2	48.6	3.8	1.9
70歳代	213	28.2	3.8	7.5	4.2	2.8	0.5	4.2	54.0	5.6	4.2
80歳以上	103	21.4	1.0	6.8	3.9	0.0	1.9	2.9	53.4	4.9	9.7

## (10) インターネット上のサービスの利用状況

問 10 あなたが暮らしの困りごとの解決や福祉サービス利用のことなどでの情報を得るために、利用したことのあるインターネット上のサービスはありますか。 <複数回答>

暮らしの困りごとの解決や福祉サービス利用のことなどでの情報を得るために、利用したことのあるインターネット上のサービスとしては、「Yahoo!やGoogleなどの検索サイト」が53.1%と最も多く、次いで「市のホームページ」が36.2%、「LINE」が9.6%となっている。



年齢別にみると、利用したことのあるサービスの内訳としては、概ねどの年齢層も「Yahoo!やGoogleなどの検索サイト」が最も多く、次いで「市のホームページ」となっており、特に30～50歳代で高い割合となっている。また、「LINE」「YouTube」「Instagram」「Twitter」が30歳代以下で概ね1～2割台みられる。

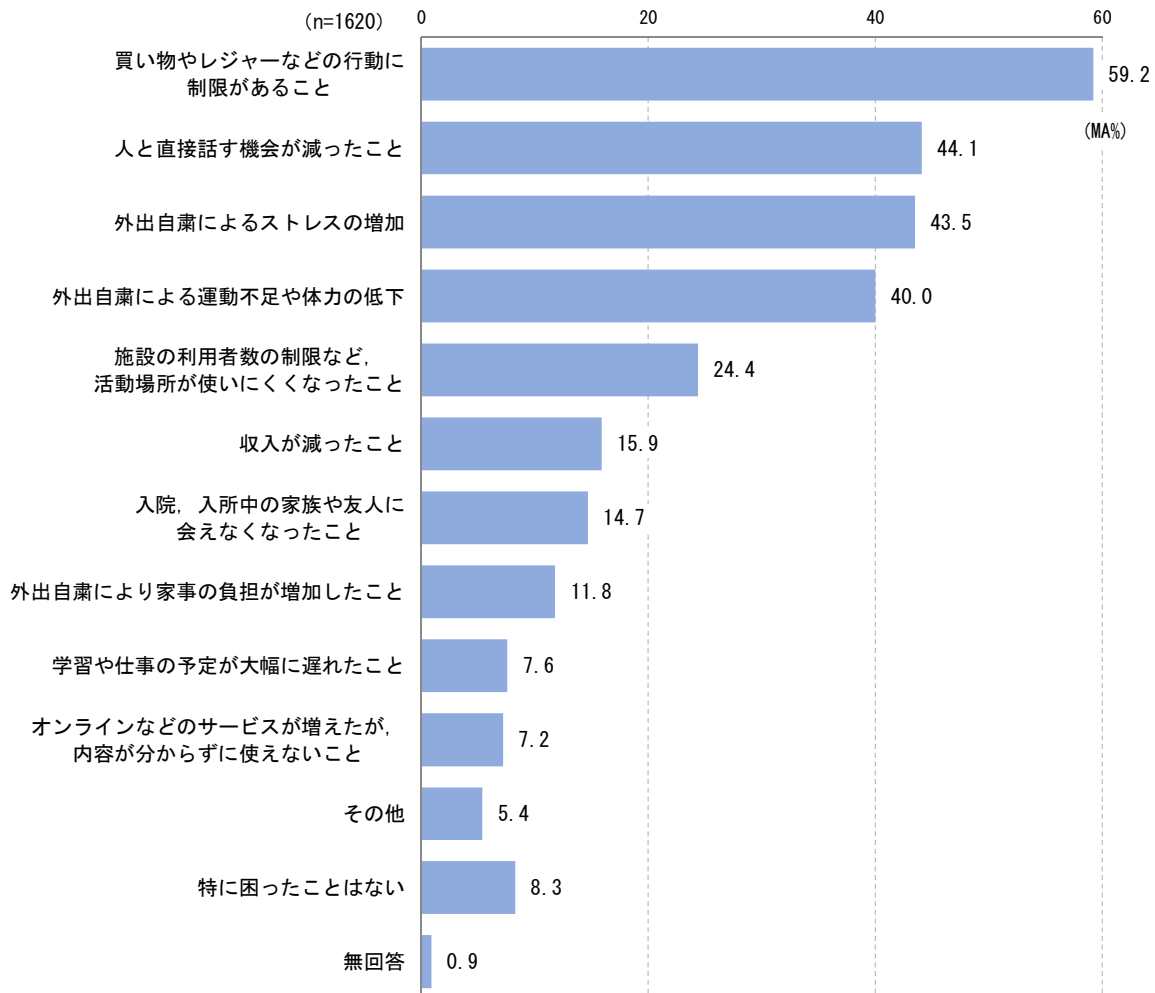
【年齢別 インターネット上のサービスの利用状況】

	調査数	検索サイト G Y o o h o o l e ! や などの	市のホームページ	L I N E	Y o u T u b e	I n s t a g r a m	T w i t t e r	F a c e b o o k	その他	この中のサービスは利用 したことがない	わからない	(MA%) 無回答
10歳代	45	40.0	8.9	13.3	20.0	15.6	17.8	2.2	0.0	13.3	31.1	0.0
20歳代	151	54.3	27.2	18.5	15.9	14.6	19.9	3.3	0.0	17.9	4.0	0.7
30歳代	210	61.4	43.3	15.2	14.8	15.2	4.8	2.9	1.4	14.8	2.4	0.0
40歳代	315	67.6	48.3	8.6	7.0	3.2	1.6	5.1	0.3	11.1	3.8	0.6
50歳代	259	68.3	45.6	6.6	7.3	1.2	3.5	4.6	0.8	11.6	4.2	1.2
60歳代	315	52.7	39.0	9.2	6.7	1.3	1.3	1.9	0.0	25.4	4.4	1.0
70歳代	213	28.2	20.7	5.6	5.2	1.4	0.5	0.9	0.5	46.5	7.0	5.2
80歳以上	103	12.6	11.7	3.9	1.9	0.0	1.0	1.0	1.0	50.5	10.7	12.6

## (11) 新型コロナウイルス感染症の影響による困りごと

問 11 あなたが新型コロナウイルス感染症の影響で困ったことは何ですか。 <複数回答>

新型コロナウイルス感染症の影響で困ったこととしては、「買い物やレジャーなどの行動に制限があること」が 59.2%と最も多く、次いで「人と直接話す機会が減ったこと」が 44.1%、「外出自粛によるストレスの増加」が 43.5%、「外出自粛による運動不足や体力の低下」が 40.0%となっている。



年齢別にみると、「買い物やレジャーなどの行動に制限があること」が20歳代で70.9%、30歳代で70.0%、40歳代で68.9%と、20～40歳代で7割前後と高くなっている。また、「人と直接話す機会が減ったこと」が20歳代で57.6%、「外出自粛によるストレスの増加」が20歳代で52.3%、30歳代で51.0%、「外出自粛による運動不足や体力の低下」が80歳以上で51.5%と、それぞれ高い割合となっている。

【年齢別 新型コロナウイルス感染症の影響による困りごと】

	調査数	(MA%)									
		買い物やレジャーなどの行動に制限があること	人と直接話す機会が減ったこと	外出自粛によるストレスの増加	外出自粛による運動不足や体力の低下	施設の利用者数の制限など、活動場所が使いにくくなったこと	収入が減ったこと	入院、入所中の家族や友人に会えなくなったこと	外出自粛により家事の負担が増加したこと	学習や仕事の予定が大幅に遅れたこと	オンラインなどのサービスが増えたが、内容が分からずに使えないこと
10歳代	45	46.7	51.1	35.6	46.7	31.1	11.1	8.9	11.1	22.2	4.4
20歳代	151	70.9	57.6	52.3	47.0	24.5	19.9	7.9	5.3	15.2	4.0
30歳代	210	70.0	37.1	51.0	40.0	36.7	15.7	12.4	17.6	11.4	3.3
40歳代	315	68.9	37.1	46.0	35.2	30.2	18.4	10.8	21.0	9.5	7.3
50歳代	259	52.9	40.5	43.2	35.5	18.9	21.2	18.5	10.8	6.9	8.5
60歳代	315	52.4	45.7	40.3	38.7	20.3	15.6	20.0	7.6	4.8	6.3
70歳代	213	59.6	51.2	39.9	44.1	21.1	10.3	17.4	5.6	1.4	12.7
80歳以上	103	35.9	49.5	31.1	51.5	13.6	3.9	13.6	9.7	0.0	8.7

	その他	特に困ったことはない	無回答
10歳代	2.2	6.7	0.0
20歳代	5.3	2.0	0.0
30歳代	7.6	5.2	0.0
40歳代	7.0	7.3	0.3
50歳代	5.4	8.5	0.4
60歳代	4.8	10.8	0.0
70歳代	3.3	10.3	0.9
80歳以上	3.9	15.5	3.9



家族構成別にみると、「買い物やレジャーなどの行動に制限があること」が親と子（18歳未満の子あり）の世帯で69.0%、「人と直接話す機会が減ったこと」が親と子と孫の世帯で56.5%と、それぞれ最も高くなっている。また、「外出自粛によるストレスの増加」が親と子の世帯（18歳未満の子あり50.0%、なし47.1%）で高い。また、一人暮らし世帯で「オンラインなどのサービスが増えたが、内容が分からずに使えないこと」が12.5%と、他の世帯に比べて高くなっている。

【家族構成別 新型コロナウイルス感染症の影響による困りごと】

	調査数	(MA%)								
		買い物やレジャーなどの行動に制限があること	人と直接話す機会が減ったこと	外出自粛によるストレスの増加	外出自粛による運動不足や体力の低下	施設の利用者数の制限など、活動場所が使いにくくなったこと	収入が減ったこと	入院、入所中の家族や友人に会えなくなったこと	外出自粛により家事の負担が増加したこと	学習や仕事の予定が大幅に遅れたこと
一人暮らし	200	46.5	45.5	37.0	38.0	19.0	16.5	12.5	2.5	3.5
夫婦のみ	447	59.3	44.3	38.9	40.3	19.7	11.4	17.0	9.2	3.1
親と子（18歳未満の子あり）	420	69.0	41.9	50.0	39.3	36.4	18.3	14.0	20.7	15.5
親と子（18歳未満の子なし）	414	59.4	47.1	47.1	43.5	21.7	18.4	14.3	11.4	7.2
親と子と孫	46	54.3	56.5	39.1	43.5	23.9	15.2	10.9	6.5	8.7

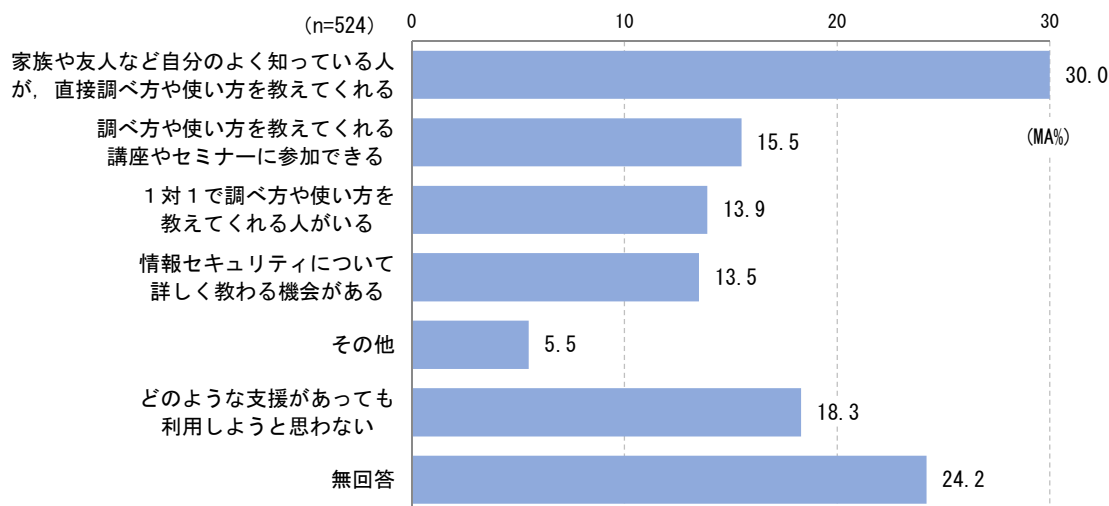
	オンラインなどのサービスが増えたが、内容が分からずに使えないこと	その他	特に困ったことはない	無回答
一人暮らし	12.5	3.5	15.5	2.0
夫婦のみ	6.3	4.3	9.4	0.2
親と子（18歳未満の子あり）	5.5	7.1	4.3	0.0
親と子（18歳未満の子なし）	7.5	5.6	7.2	0.5
親と子と孫	8.7	6.5	6.5	2.2

(12) インターネット利用にあたって希望する支援

問 12 どのような支援があればインターネット上のサービスを利用しようと思いますか。  
 <複数回答>

※問 10 で「この中のサービスは利用したことがない」「わからない」もしくは問 11 で「オンラインなどのサービスが増えたが、内容が分からずに使えないこと」と回答した人のみ

インターネット上のサービスを利用していない（使えない）と回答した人に、どのような支援があれば利用しようと思うかたずねたところ、「家族や友人など自分のよく知っている人が、直接調べ方や使い方を教えてくれる」が 30.0%と最も多くなっている。



年齢別にみると、どの年齢層でも「家族や友人など自分のよく知っている人が、直接調べ方や使い方を教えてくれる」が最も多く、特に 10 歳代、50 歳代で 4 割と高くなっている。また、「1 対 1 で調べ方や使い方を教えてくれる人がいる」は 60 歳代、「情報セキュリティについて詳しく教わる機会がある」は 10 歳代、20 歳代、40 歳代、50 歳代、「調べ方や使い方を教えてくれる講座やセミナーに参加できる」は 40 歳代から 60 歳代で 2 割前後と高くなっている。

【年齢別 インターネット利用にあたって希望する支援】

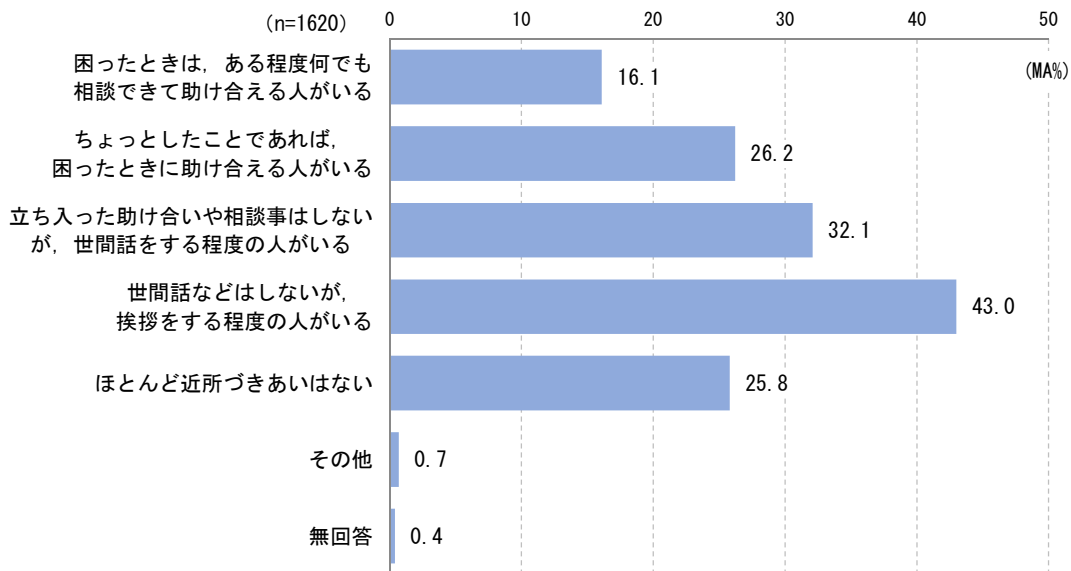
	調査数	家族や友人など自分のよく知っている人が、直接調べ方や使い方を教えてくれる	1対1で調べ方や使い方を教えてくれる人がいる	情報セキュリティについて詳しく教わる機会がある	調べ方や使い方を教えてくれる講座やセミナーに参加できる	その他	どのような支援があっても利用しようと思わない	無回答
10歳代	20	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0
20歳代	37	35.1	10.8	18.9	0.0	2.7	21.6	18.9
30歳代	43	16.3	7.0	7.0	7.0	7.0	30.2	30.2
40歳代	66	30.3	16.7	21.2	22.7	4.5	15.2	24.2
50歳代	61	39.3	14.8	21.3	19.7	6.6	6.6	18.0
60歳代	104	25.0	21.2	15.4	18.3	7.7	18.3	23.1
70歳代	124	35.5	15.3	9.7	16.1	6.5	18.5	22.6
80歳以上	69	21.7	7.2	2.9	17.4	2.9	21.7	34.8

## 2 地域との関わりについて

### (1) 近所づきあいの程度

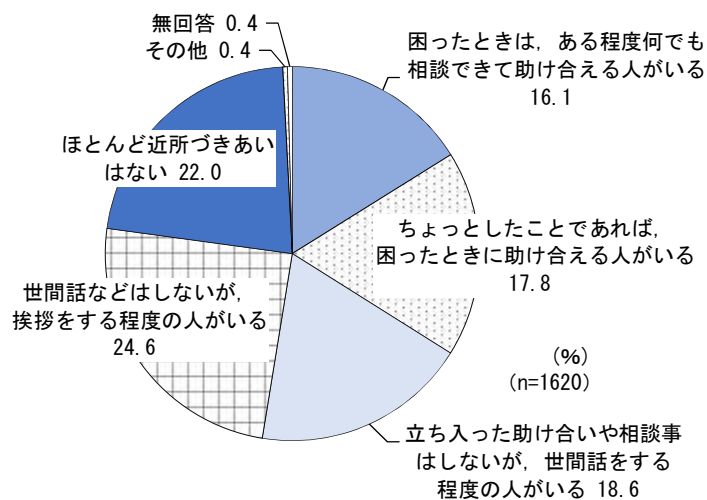
問 13 あなたの隣近所（歩いて行ける程度の範囲）に、どの程度のおつきあいの人がいますか。  
 <複数回答>

近所づきあいの程度としては、「世間話などはしないが、挨拶をする程度の人がいる」が43.0%と最も多く、「ほとんど近所づきあいはない」が25.8%みられる。



※以下は、近所づきあいの程度について、「困ったときは、ある程度何でも相談できて助け合える人がある」が最も高く、「ほとんど近所づきあいはない」が最も低い回答として、つきあいの程度がより高いほうの回答を優先し、単一回答扱いにて再集計したものである。

#### 【近所づきあいの程度（単一回答扱い）】



性別にみると、助け合える人がいるという割合（「困ったときは、ある程度何でも相談できて助け合える人がいる」「ちょっとしたことであれば、困ったときに助け合える人がいる」の計）が、男性で24.6%に対し、女性では39.6%と高くなっている。一方、「ほとんど近所づきあいはない」は女性で19.3%に対し、男性では26.4%と高い。

【性別 近所づきあいの程度（単一回答扱い）】

	調査数	困ったときは、ある程度何でも相談できて助け合える人がいる	困ったときに助け合える人がいる	ちょっとしたことであれば、困ったときに助け合える人がいる	立ち入った助け合いや相談事はしないが、世間話をする程度の人がいる	世間話などはしないが、挨拶をする程度の人がいる	ほとんど近所づきあいはない	その他	無回答
男性	610	11.3	13.3	19.8	<b>28.0</b>	26.4	0.3	0.8	
女性	997	19.0	20.6	18.1	<b>22.6</b>	19.3	0.4	0.2	

年齢別にみると、助け合える人がいるという割合が70歳代で47.4%と最も高く、次いで40歳代で41.0%となっている。一方、「ほとんど近所づきあいはない」は20歳代で35.8%と最も高く、次いで30歳代で29.0%となっている。

【年齢別 近所づきあいの程度（単一回答扱い）】

	調査数	困ったときは、ある程度何でも相談できて助け合える人がいる	困ったときに助け合える人がいる	ちょっとしたことであれば、困ったときに助け合える人がいる	立ち入った助け合いや相談事はしないが、世間話をする程度の人がいる	世間話などはしないが、挨拶をする程度の人がいる	ほとんど近所づきあいはない	その他	無回答
10歳代	45	13.3	26.7	8.9	<b>31.1</b>	20.0	0.0	0.0	
20歳代	151	10.6	15.2	7.3	31.1	<b>35.8</b>	0.0	0.0	
30歳代	210	13.8	12.4	20.5	22.4	<b>29.0</b>	1.0	1.0	
40歳代	315	<b>21.6</b>	19.4	17.1	20.6	20.6	0.3	0.3	
50歳代	259	13.5	14.7	20.1	<b>25.9</b>	25.1	0.8	0.0	
60歳代	315	11.7	17.5	21.6	<b>27.6</b>	21.3	0.3	0.0	
70歳代	213	23.5	<b>23.9</b>	21.6	21.6	9.4	0.0	0.0	
80歳以上	103	17.5	19.4	21.4	<b>24.3</b>	13.6	0.0	3.9	

家族構成別にみると、助け合える人がいるという割合は、親と子（18歳未満の子あり）の世帯で42.6%と最も高くなっている。また、一人暮らしにおいて、「困ったときは、ある程度何でも相談できて助け合える人がいる」が22.5%と最も高いものの、「ほとんど近所づきあいはない」についても33.0%と最も高くなっている。

【家族構成別 近所づきあいの程度（単一回答扱い）】

	調査数	困ったときは、ある程度何でも相談できて助け合える人がいる	困ったときは、ある程度何でも相談できて助け合える人がいる	困ったときに助け合える人がいる	立ち入った助け合いや相談事はしないが、世間話をする程度の人がある	世間話などはしないが、挨拶をする程度の人がある	ほとんど近所づきあいはない	その他	無回答
一人暮らし	200	22.5	15.5	14.0	14.5	<b>33.0</b>	0.5	0.0	
夫婦のみ	447	13.2	18.1	19.0	<b>27.5</b>	21.7	0.0	0.4	
親と子（18歳未満の子あり）	420	20.7	<b>21.9</b>	20.2	20.5	15.2	0.7	0.7	
親と子（18歳未満の子なし）	414	13.5	15.7	17.6	<b>30.9</b>	22.0	0.0	0.2	
親と子と孫	46	6.6	19.6	21.7	23.9	<b>28.3</b>	0.0	0.0	
その他	77	9.1	10.4	23.4	24.7	<b>28.6</b>	2.6	1.3	

就労状況別にみると、助け合える人がいるという割合は、家事専業（主婦・主夫）で42.6%と最も高くなっている。また、「ほとんど近所づきあいはない」が、正社員・正職員で32.4%と最も高くなっている。

【就労状況別 近所づきあいの程度（単一回答扱い）】

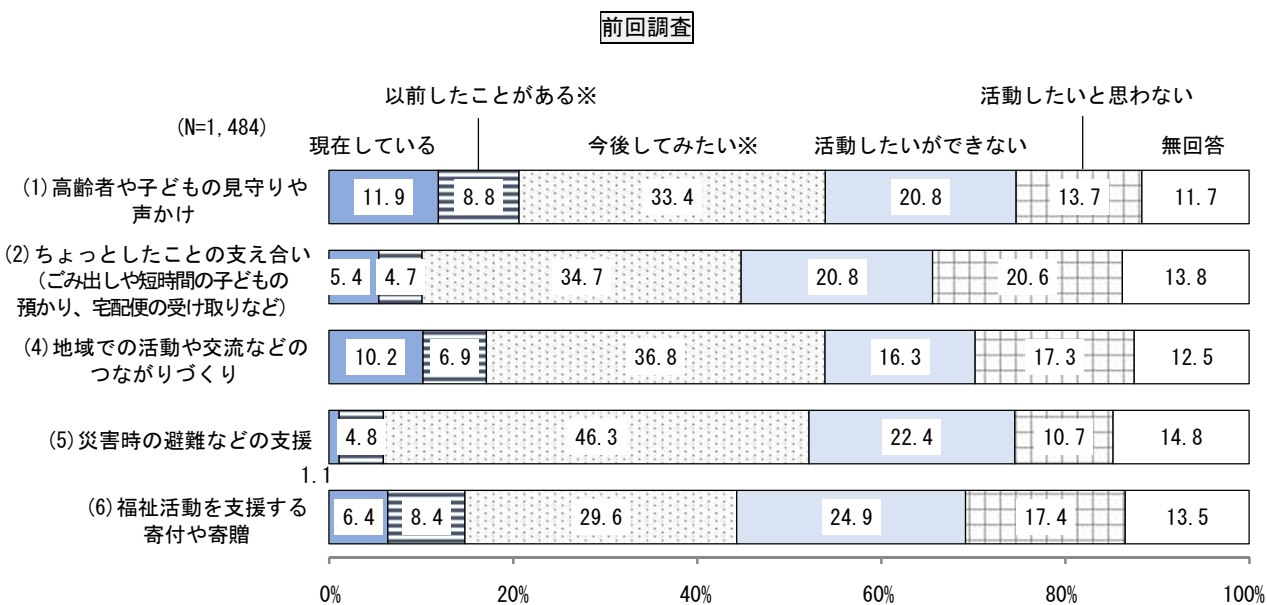
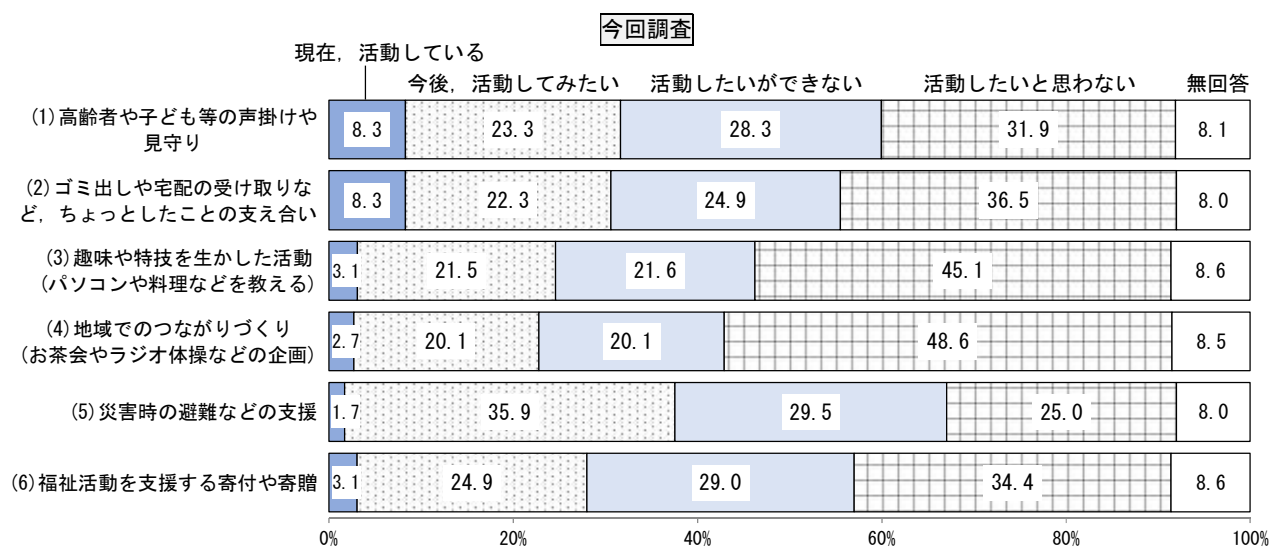
	調査数	困ったときは、ある程度何でも相談できて助け合える人がいる	困ったときは、ある程度何でも相談できて助け合える人がいる	困ったときに助け合える人がいる	立ち入った助け合いや相談事はしないが、世間話をする程度の人がある	世間話などはしないが、挨拶をする程度の人がある	ほとんど近所づきあいはない	その他	無回答
正社員・正職員	457	10.3	12.7	16.8	27.1	<b>32.4</b>	0.4	0.2	
パート・アルバイト・派遣職員・嘱託職員	276	<b>21.4</b>	17.8	20.3	19.2	20.7	0.4	0.4	
会社の経営者・役員	91	15.4	17.6	19.8	<b>28.6</b>	18.7	0.0	0.0	
自営業・家族従事者	96	18.8	12.5	15.6	<b>30.2</b>	22.9	0.0	0.0	
家事専業（主婦・主夫）	286	17.1	<b>25.5</b>	24.1	21.0	11.5	0.3	0.3	
学生	104	13.5	22.1	9.6	<b>31.7</b>	23.1	0.0	0.0	
無職	273	20.1	17.9	19.4	<b>23.4</b>	17.2	0.4	1.5	
その他	27	11.1	22.2	11.1	<b>29.6</b>	22.2	3.7	0.0	

(2) 地域の活動への参加状況

問 14 地域の福祉や子育て支援を進める活動のうち、あなたが行っているものや、今後行いたいと思うものはありますか。

地域の福祉や子育て支援を進める活動についての参加状況をたずねたところ、「現在、活動している」が『(1) 高齢者や子ども等の声掛けや見守り』『(2) ゴミ出しや宅配の受け取りなど、ちょっとしたことの支え合い』でともに8.3%、「今後、活動してみたい」が『(5) 災害時の避難などの支援』で35.9%と、それぞれ最も高い割合となっている。

前回調査（平成 28 年）とは項目や選択肢が異なるため単純な比較はできないが、前回調査に比べて、「活動したいができない」、「活動したいと思わない」が増加傾向となっている。



※「以前したことがある」は前回調査のみの選択肢

※「今後してみたい」は「今後5年ぐらいの間に見てみたい」と「将来してみたい」の合算

※「(3) 趣味や特技を生かした活動（パソコンや料理などを教える）」は前回調査では項目なし

年齢別に、「現在、活動している」と回答の割合をみると、ほぼすべての活動で70歳代が最も高い割合となっている。

また、「今後、活動してみたい」を合わせた、活動意向がある割合でみると、どの活動も10歳代で最も高い割合となっており、『(5) 災害時の避難などの支援』では20歳代でも51.0%と高い。

【年齢別 地域の活動への参加状況】

◀ 「現在、活動している」の割合 ▶

	調査数	(1) 高齢者や子ども等の声掛けや見守り	(2) ゴミ出しや宅配の受け取りなど、ちよつとしたことの支え合い	(3) 趣味や特技を生かした活動	(4) 地域でのつながりづくり	(5) 災害時の避難などの支援	(6) 福祉活動を支援する寄付や寄贈
10歳代	45	2.2	<b>13.3</b>	0.0	0.0	2.2	0.0
20歳代	151	2.0	<b>8.6</b>	0.7	1.3	1.3	0.7
30歳代	210	<b>6.2</b>	3.3	0.5	1.4	0.5	1.9
40歳代	315	<b>11.7</b>	4.8	1.6	1.3	1.3	1.9
50歳代	259	<b>8.1</b>	5.8	2.3	2.3	1.2	2.7
60歳代	315	8.9	<b>10.2</b>	6.0	2.2	2.2	3.5
70歳代	213	11.7	<b>16.0</b>	6.1	7.0	2.8	8.5
80歳以上	103	2.9	<b>11.7</b>	5.8	4.9	2.9	2.9

◀ 活動意向がある割合（「現在、活動している」「今後、活動してみたい」の計） ▶

	調査数	(1) 高齢者や子ども等の声掛けや見守り	(2) ゴミ出しや宅配の受け取りなど、ちよつとしたことの支え合い	(3) 趣味や特技を生かした活動	(4) 地域でのつながりづくり	(5) 災害時の避難などの支援	(6) 福祉活動を支援する寄付や寄贈
10歳代	45	46.7	<b>53.3</b>	33.3	33.3	<b>66.7</b>	48.9
20歳代	151	21.9	31.1	30.5	21.9	<b>51.0</b>	32.5
30歳代	210	29.5	19.0	21.4	20.0	<b>37.6</b>	29.5
40歳代	315	35.6	27.3	21.3	19.7	<b>37.5</b>	26.0
50歳代	259	33.6	30.1	32.4	24.7	<b>34.4</b>	26.6
60歳代	315	35.2	34.9	28.9	23.2	<b>40.3</b>	27.3
70歳代	213	31.9	<b>37.6</b>	19.2	27.7	31.0	29.6
80歳以上	103	14.6	<b>26.2</b>	9.7	17.5	17.5	19.4

居住地域別に、「現在、活動している」と回答の割合をみると、『(2) ゴミ出しや宅配の受け取りなど、ちょっとしたことの支え合い』では、山手小学校区で 12.4%と最も高くなっており、朝日ヶ丘小学校区で 10.6%，岩園小学校区で 10.3%みられるのに対し、打出浜小学校区では 3.2%と最も低い。

また、「今後、活動してみたい」を合わせた、活動意向がある割合でみると、どの活動も朝日ヶ丘小学校区で高い割合となっており、『(2) ゴミ出しや宅配の受け取りなど、ちょっとしたことの支え合い』で 46.3%，『(1) 高齢者や子ども等の声掛けや見守り』で 41.5%と、他の地域に比べて特に高い。

【居住地域別 地域の活動への参加状況】

≪ 「現在、活動している」の割合 ≫

	調査数	(1) 高齢者や子ども等の声掛けや見守り	(2) ゴミ出しや宅配の受け取りなど、ちょっとしたことの支え合い	(3) 趣味や特技を生かした活動	(4) 地域でのつながりづくり	(5) 災害時の避難などの支援	(6) 福祉活動を支援する寄付や寄贈
山手小学校区	323	9.9	12.4	3.7	4.0	2.8	4.3
朝日ヶ丘小学校区	123	9.8	10.6	4.1	1.6	1.6	2.4
岩園小学校区	253	9.9	10.3	2.8	2.4	0.4	3.2
精道小学校区	232	6.9	7.3	2.2	2.6	0.9	2.2
宮川小学校区	213	7.0	5.6	2.8	2.3	2.8	2.8
打出浜小学校区	157	7.6	3.2	3.8	2.5	2.5	1.9
潮見小学校区	160	6.3	6.3	4.4	1.9	1.3	5.0
浜風小学校区	122	7.4	8.2	2.5	1.6	0.0	2.5

≪ 活動意向がある割合（「現在、活動している」「今後、活動してみたい」の計） ≫

	調査数	(1) 高齢者や子ども等の声掛けや見守り	(2) ゴミ出しや宅配の受け取りなど、ちょっとしたことの支え合い	(3) 趣味や特技を生かした活動	(4) 地域でのつながりづくり	(5) 災害時の避難などの支援	(6) 福祉活動を支援する寄付や寄贈
山手小学校区	323	34.1	31.9	24.5	21.7	39.9	33.7
朝日ヶ丘小学校区	123	41.5	46.3	31.7	24.4	42.3	33.3
岩園小学校区	253	34.0	32.0	24.9	19.8	37.2	26.9
精道小学校区	232	26.7	26.3	24.6	25.9	37.5	24.6
宮川小学校区	213	32.9	26.8	29.1	24.9	37.1	28.2
打出浜小学校区	157	26.1	21.7	21.0	19.1	40.1	21.7
潮見小学校区	160	29.4	31.3	20.6	26.3	34.4	27.5
浜風小学校区	122	31.1	38.5	23.8	22.1	33.6	29.5



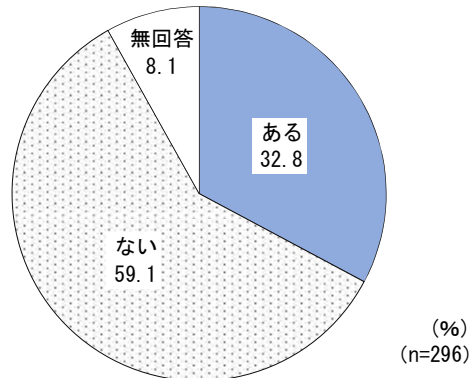
## (3) 新型コロナウイルス感染症の影響による活動上の困りごと

問 15 新型コロナウイルス感染症の影響で、活動上困ったことがあればお書きください。

※ 問 14 のいずれかの項目で「現在、活動している」と回答した人のみ

いずれかの地域の活動に参加していると回答した人のうち、新型コロナウイルス感染症の影響で、活動上困ったことがあったという割合（「ある」）は3割台（32.8%）となっている。

〈困りごとの有無〉



また、具体的な困りごとの内容については、のべ103件の回答があった。

〈困りごとの内容〉

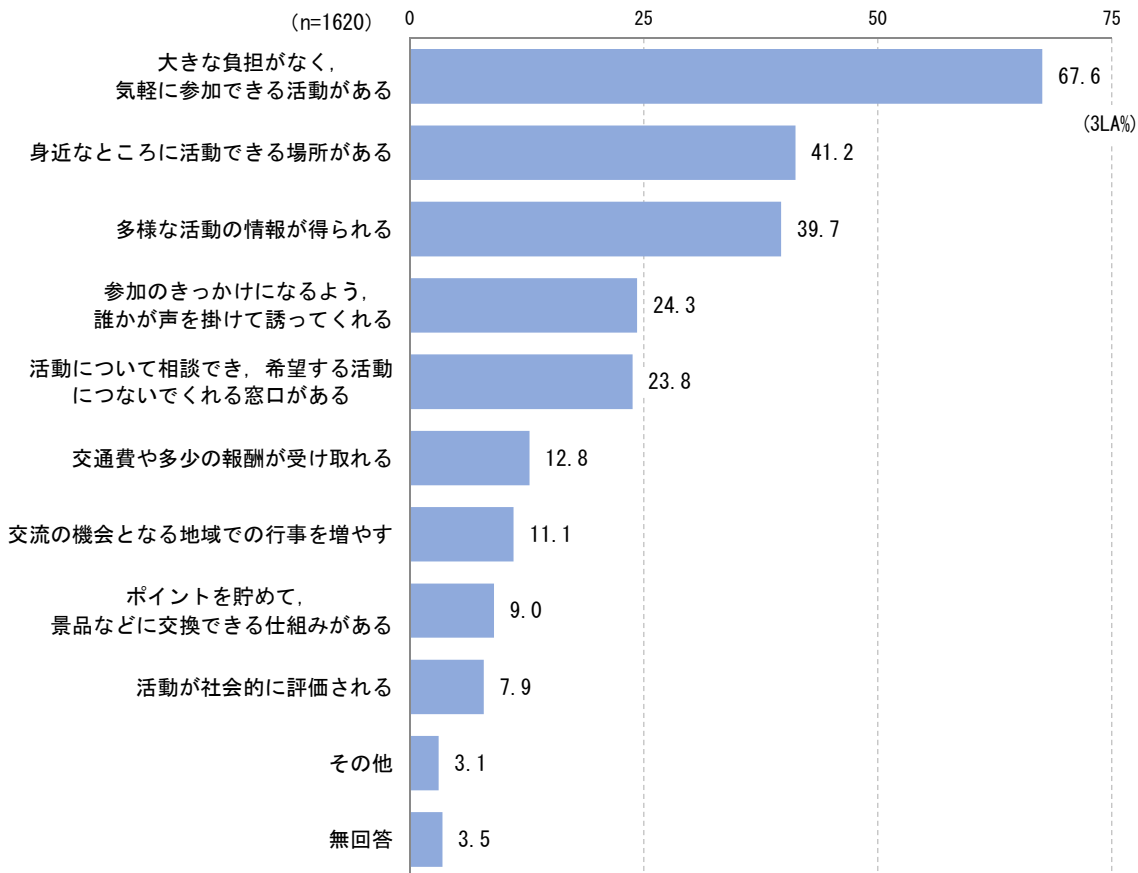
主な意見
<b>活動ができなくなった、制限された (67 件)</b>
● グループ活動の無期限延期。
● 福祉サークルの開催中止。
● 活動への制限が増え、集まりの場への参加がしにくくなった。
● 地域（マンションなど）の集まりが中止になることがある。感染が怖くて出席できない。
● 気軽に参加できなくなった。
● 自治会や老人会の集會ができなくなった。
● 活動先への移動自粛。
● 地域の高齢者の支援活動等が全くできない。
● 活動休止になり再開した時にスキルダウンしていないか心配。
<b>行事・イベントの中止 (9 件)</b>
● 避難訓練（防災訓練）の中止。
● チャリティーイベントの中止。
● 活動資金集めのバザー等が開催できない。
● 会場に人が集まることが制限され、開催できない。

主な意見
<b>感染防止対策で活動が不自由（8件）</b>
● ソーシャルディスタンスなど、気を使う事が多い。
● マスク着用やソーシャルディスタンスにより、活動内容が制限されている。
● 感染を恐れ、以前より気軽に話しづらくなった。
<b>収入の減少（5件）</b>
● 収入が減ったこと
● 時短営業させられていて、収入が減って困っている。
● 就業先が停止
<b>施設の確保が難しくなった（3件）</b>
● 準備と連絡、施設の確保が不便。対応に苦労した。
● 活動場所が使えない。人との交流が中心の活動は忌避される。
<b>参加者の減少（3件）</b>
● 参加者が減少した。
● オンラインでの活動に切り替わったことがハードルになり参加できなくなった人がいる。
<b>その他（8件）</b>
● 日々不安でたまらない。
● 子供たちに、コロナについて正しい知識を伝えてやたらと怖がることはないと教えるべきだと思う。
● 高齢者や子どもたちは国や自治体の施策に振り回され、かわいそう。せめて、福祉だけでも力を入れて、肩身がせまくならないようにしてあげてほしい。

## (4) 地域活動に参加しやすくするために大切なこと

問 16 地域における活動や行事に参加しやすくするためには、どのようなことが大切だと思いますか。 <複数回答(3つまで)>

地域の活動や行事に参加しやすくするために大切と思うこととしては、「大きな負担がなく、気軽に参加できる活動がある」が 67.6%と最も多く、次いで「身近なところに活動できる場所がある」が 41.2%、「多様な活動の情報が得られる」が 39.7%となっている。



年齢別にみると、どの年齢層も「大きな負担がなく、気軽に参加できる活動がある」が最も多く、特に10歳代及び30～50歳代では7割台と高い。また、「身近なところに活動できる場所がある」は30歳代で45.7%、70歳代で45.1%、「多様な活動の情報が得られる」は30歳代で47.1%、60歳代で46.0%と、それぞれ高くなっている。

【年齢別 地域活動に参加しやすくするために大切なこと】

(3LA%)												
	調査数	大きな負担がなく、気軽に参加できる活動がある	身近なところに活動できる場所がある	多様な活動の情報が得られる	参加のきっかけになるよう、誰かが声を掛けて誘ってくれる	活動について相談でき、希望する活動につないでくれる窓口がある	交通費や多少の報酬が受け取れる	交流の機会となる地域での行事を増やす	ポイントを貯めて、景品などに交換できる仕組みがある	活動が社会的に評価される	その他	無回答
10歳代	45	75.6	37.8	42.2	44.4	8.9	15.6	8.9	6.7	20.0	0.0	0.0
20歳代	151	66.2	37.1	35.8	29.8	25.8	24.5	13.9	17.9	11.9	2.6	1.3
30歳代	210	71.9	45.7	47.1	24.8	21.4	14.8	12.9	18.1	10.5	1.9	0.5
40歳代	315	77.8	39.7	33.7	21.0	21.3	17.5	10.2	9.2	8.6	1.9	2.9
50歳代	259	71.4	42.1	40.9	19.7	28.6	15.8	8.5	8.1	8.1	3.1	3.1
60歳代	315	63.2	41.3	46.0	20.6	30.5	8.9	10.5	6.7	5.1	3.8	2.9
70歳代	213	59.6	45.1	35.2	27.2	18.3	2.8	12.7	2.3	4.7	4.2	7.5
80歳以上	103	45.6	33.0	34.0	32.0	19.4	2.9	13.6	0.0	3.9	6.8	10.7

職業別にみると、どの職業でも「大きな負担がなく、気軽に参加できる活動がある」が最も多く、とくに正社員・正職員、パート・アルバイト・派遣職員・嘱託職員、自営業・家族従事者で7割台と高い。また、学生で「参加のきっかけになるよう、誰かが声を掛けて誘ってくれる」が42.3%と高くなっている。

【職業別 地域活動に参加しやすくするために大切なこと】

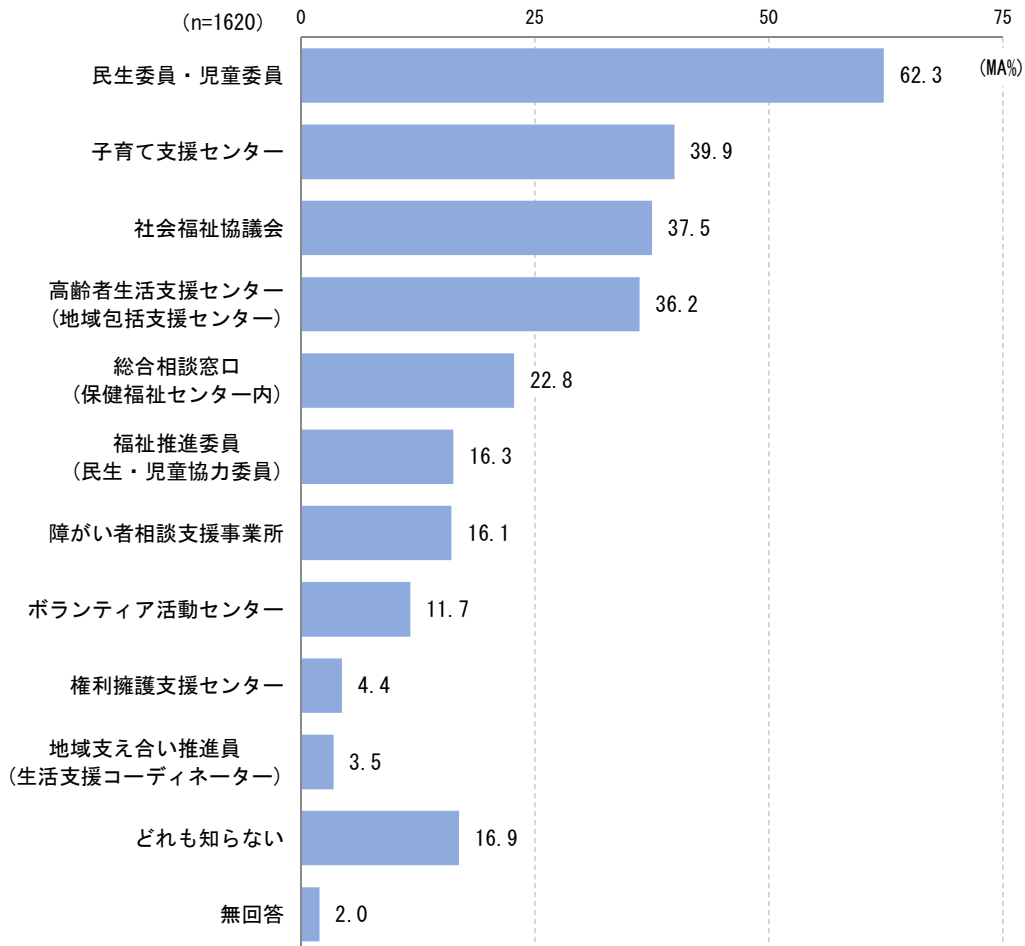
(3LA%)												
	調査数	大きな負担がなく、気軽に参加できる活動がある	身近なところに活動できる場所がある	多様な活動の情報が得られる	参加のきっかけになるよう、誰かが声を掛けて誘ってくれる	活動について相談でき、希望する活動につないでくれる窓口がある	交通費や多少の報酬が受け取れる	交流の機会となる地域での行事を増やす	ポイントを貯めて、景品などに交換できる仕組みがある	活動が社会的に評価される	その他	無回答
正社員・正職員	457	71.3	41.8	40.0	23.2	22.8	17.9	14.4	14.9	10.7	1.3	2.0
パート・アルバイト・派遣職員・嘱託職員	276	75.7	37.7	38.0	21.0	30.4	14.5	10.9	9.4	6.2	1.4	1.8
会社の経営者・役員	91	59.3	31.9	54.9	20.9	23.1	5.5	13.2	11.0	7.7	7.7	2.2
自営業・家族従事者	96	71.9	51.0	38.5	16.7	25.0	12.5	7.3	3.1	12.5	3.1	3.1
家事専業（主婦・主夫）	286	66.8	46.5	41.3	24.1	22.4	9.4	9.8	5.6	3.5	3.8	3.5
学生	104	68.3	35.6	41.3	42.3	21.2	19.2	8.7	8.7	15.4	1.9	1.0
無職	273	56.4	39.6	34.1	26.0	21.2	7.3	9.5	4.0	4.8	5.5	8.8
その他	27	51.9	48.1	33.3	29.6	22.2	7.4	7.4	7.4	11.1	7.4	7.4

### 3 福祉の相談先や制度について

#### (1) 福祉関係機関等の認知状況

問 17 次の中で、あなたの知っているものはどれですか。 <複数回答>

福祉関係機関等のうち知っているものとしては、「民生委員・児童委員」が62.3%と最も多く、次いで「子育て支援センター」が39.9%、「社会福祉協議会」が37.5%、「高齢者生活支援センター（地域包括支援センター）」が36.2%となっている。



年齢別にみると、10～30 歳代では「子育て支援センター」、40 歳代以降では「民生委員・児童委員」が最も多くなっている。また、「高齢者生活支援センター（地域包括支援センター）」は60 歳代、70 歳代で4 割台と高く、10 歳代、20 歳代では「どれも知らない」が3 割前後と高い。

【年齢別 福祉関係機関等の認知状況】

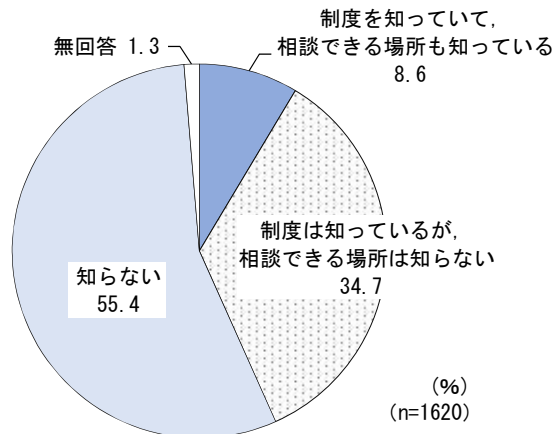
(MA%)

	調査数	民生委員・児童委員	子育て支援センター	社会福祉協議会	高齢者生活支援センター (地域包括支援センター)	総合相談窓口 (保健福祉センター内)	福祉推進委員 (民生・児童協力委員)	障がい者相談支援事業所	ボランティア活動センター	権利擁護支援センター	地域支え合い推進員 (生活支援コーディネーター)	どれも知らない	無回答
10歳代	45	13.3	<b>51.1</b>	8.9	28.9	20.0	6.7	17.8	13.3	0.0	2.2	33.3	0.0
20歳代	151	35.1	<b>42.4</b>	23.2	25.8	15.9	10.6	13.9	15.2	2.6	4.6	29.1	1.3
30歳代	210	55.7	<b>64.3</b>	28.6	27.1	28.1	13.8	16.2	11.9	4.8	1.9	15.7	1.4
40歳代	315	<b>63.5</b>	56.5	37.5	28.6	24.8	14.0	16.5	10.8	4.4	4.4	16.5	1.6
50歳代	259	<b>67.2</b>	37.5	40.5	40.2	21.2	16.2	17.0	8.5	5.0	2.3	15.1	1.5
60歳代	315	<b>72.4</b>	27.9	45.7	46.0	19.4	17.5	19.7	11.7	6.3	2.9	16.8	1.9
70歳代	213	<b>72.8</b>	21.1	45.5	44.1	28.2	23.9	13.1	15.5	4.2	6.1	10.3	2.8
80歳以上	103	<b>67.0</b>	12.6	41.7	38.8	21.4	23.3	11.7	8.7	1.0	2.9	13.6	6.8

(2) 生活困窮者自立支援制度の認知度

問 18 あなたは、経済的に生活が困窮したときに、困りごとの解決に向けて支援（住居確保、就労支援等）するという生活困窮者自立支援制度を知っていますか。

“生活困窮者自立支援制度”について、「制度を知っていて、相談できる場所も知っている」が 8.6%、「制度は知っているが、相談できる場所は知らない」が 34.7%となっており、合わせると、制度を知っているという割合は全体の4割台（43.3%）みられる。



年齢別にみると、「制度を知っていて、相談できる場所も知っている」は 30 歳代で 11.9%と最も高く、次いで 20 歳代で 10.6%、60 歳代で 10.2%となっている。一方、「知らない」は 50 歳代で 60.2%、40 歳代で 58.4%と高い。

【年齢別 生活困窮者自立支援制度の認知度】

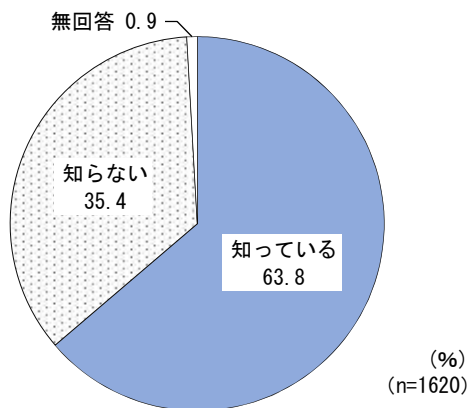
	調査数	制度を知っていて、相談できる場所も知っている	制度は知っているが、相談できる場所は知らない	知らない	無回答
10歳代	45	2.2	44.4	53.3	0.0
20歳代	151	10.6	31.8	56.3	1.3
30歳代	210	11.9	34.8	52.9	0.5
40歳代	315	7.0	34.0	58.4	0.6
50歳代	259	7.3	30.9	60.2	1.5
60歳代	315	10.2	34.6	54.6	0.6
70歳代	213	8.5	39.4	49.8	2.3
80歳以上	103	4.9	37.9	52.4	4.9

(3) 成年後見制度の利用に対する考え

①成年後見制度の認知度

問 19 あなたは、判断能力が十分でなくなった方を後見人などが支援するという成年後見制度を知っていますか。

“成年後見制度”について「知っている」は6割台（63.8%）となっている。



年齢別にみると、「知っている」は70歳代で80.3%、60歳代で77.5%と高くなっているのに対し、10歳代では22.2%、20歳代では43.0%と低い。

【年齢別 成年後見制度の認知度】

	調査数	認知度 (%)		
		知っている	知らない	無回答
10歳代	45	22.2	<b>77.8</b>	0.0
20歳代	151	43.0	<b>56.3</b>	0.7
30歳代	210	<b>54.8</b>	44.8	0.5
40歳代	315	<b>57.8</b>	41.6	0.6
50歳代	259	<b>65.6</b>	34.0	0.4
60歳代	315	<b>77.5</b>	22.5	0.0
70歳代	213	<b>80.3</b>	17.8	1.9
80歳以上	103	<b>68.9</b>	26.2	4.9

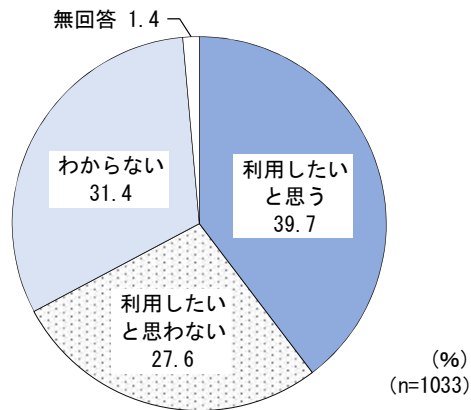


②成年後見制度の利用意向

問 20 あなた自身や家族が、認知症などにより判断が十分にできなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。

※問 19 で「知っている」と回答した人のみ

“成年後見制度”を知っていると回答した人のうち、制度を「利用したいと思う」は約 4 割 (39.7%) となっている。



家族構成別にみると、「利用したいと思う」は親と子 (18 歳未満の子あり) の世帯で 45.9%、一人暮らしの世帯で 43.2% と高く、「利用したいと思わない」は夫婦のみの世帯で 34.7% と最も高くなっている。

【家族構成別 成年後見制度の利用意向】

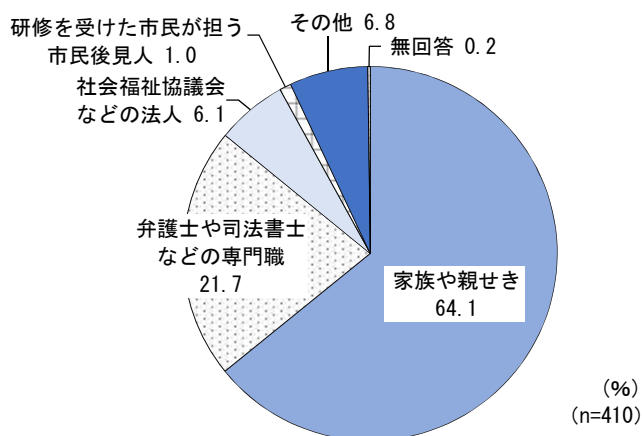
	調査数	利用したいと思う	利用したいと思わない	わからない	無回答
一人暮らし	132	43.2	30.3	25.8	0.8
夫婦のみ	323	35.9	34.7	28.8	0.6
親と子 (18歳未満の子あり)	233	45.9	19.3	33.5	1.3
親と子 (18歳未満の子なし)	260	37.3	26.5	34.6	1.5
親と子と孫	30	36.7	23.3	40.0	0.0
その他	48	39.6	20.8	33.3	6.3

### ③希望する成年後見人

問 21 後見人などには誰になってもらいたいですか。

※問 20 で「利用したいと思う」と回答した人のみ

“成年後見制度”の利用意向がある人に対し、後見人は誰になってもらいたと思うかたずねたところ、「家族や親せき」が6割台（64.1%）を占めており、次いで「弁護士や司法書士などの専門職」が21.7%となっている。



家族構成別にみると、いずれも「家族や親せき」が最も多くなっている。一方、「弁護士や司法書士などの専門職」は夫婦のみの世帯で25.9%、「社会福祉協議会などの法人」は一人暮らし世帯で14.0%と、それぞれ高い割合となっている。

【家族構成別 希望する成年後見人】

	調査数	家族や親せき	弁護士や司法書士などの専門職	社会福祉協議会などの法人	研修を受けた市民が担う市民後見人	その他	無回答
一人暮らし	57	61.4	19.3	14.0	3.5	1.8	0.0
夫婦のみ	116	57.8	25.9	6.0	1.7	8.6	0.0
親と子（18歳未満の子あり）	107	69.2	22.4	1.9	0.0	6.5	0.0
親と子（18歳未満の子なし）	97	71.1	13.4	7.2	0.0	7.2	1.0
親と子と孫	11	72.7	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0
その他	19	47.4	42.1	0.0	0.0	10.5	0.0

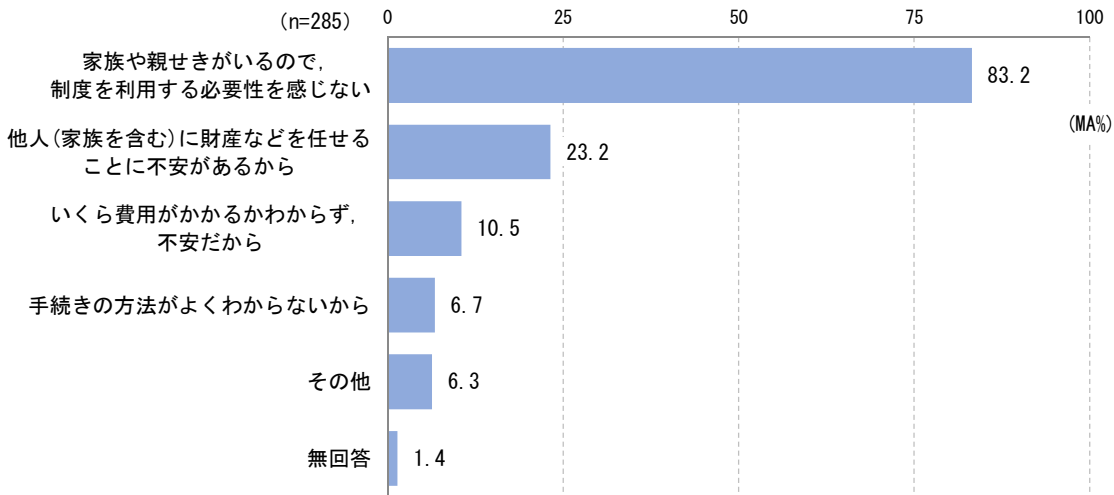
(%)

④成年後見制度を利用したいと思わない理由

問 22 利用したいと思わない理由は何ですか。 <複数回答>

※問 20 で「利用したいと思わない」と回答した人のみ

“成年後見制度”について知っているが利用したいと思わないと回答した人に、その理由をたずねたところ、「家族や親せきがいるので、制度を利用する必要性を感じない」が 83.2%と最も多く、次いで「他人（家族を含む）に財産などを任せることに不安があるから」が 23.2%となっている。



性別にみると、「家族や親せきがいるので、制度を利用する必要性を感じない」が女性で 84.5%、男性で 80.0%と、ともに最も多い。また、「他人（家族を含む）に財産などを任せることに不安があるから」が次いで多くなっているものの、女性で 18.8%に対し、男性では 31.0%と高い。

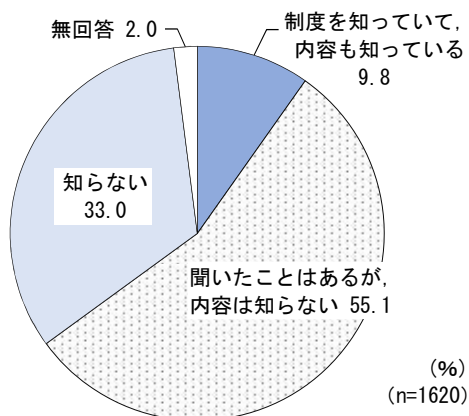
【性別 成年後見制度を利用したいと思わない理由】

	調査数	家族や親せきがいるので、制度を利用する必要性を感じない	他人（家族を含む）に財産などを任せることに不安があるから	いくら費用がかかるかわからず、不安だから	手続きの方法がよくわからないから	その他	無回答
男性	100	80.0	31.0	11.0	10.0	7.0	2.0
女性	181	84.5	18.8	10.5	5.0	6.1	1.1

(4) 更生保護制度の認知度

問 23 あなたは、犯罪や非行をした人の立ち直りを社会の中で見守り、地域の力で支えていく更生保護制度を知っていますか。

“更生保護制度”について、「制度を知っていて、内容も知っている」は約1割(9.8%)となっている。



年齢別にみると、「制度も知っていて、内容も知っている」が80歳以上で11.7%、50歳代で11.2%と高くなっており、他の年齢層においても概ね1割前後みられる。また、「知らない」は10歳代で51.1%、30歳代で42.4%と高い。

【年齢別 更生保護制度の認知度】

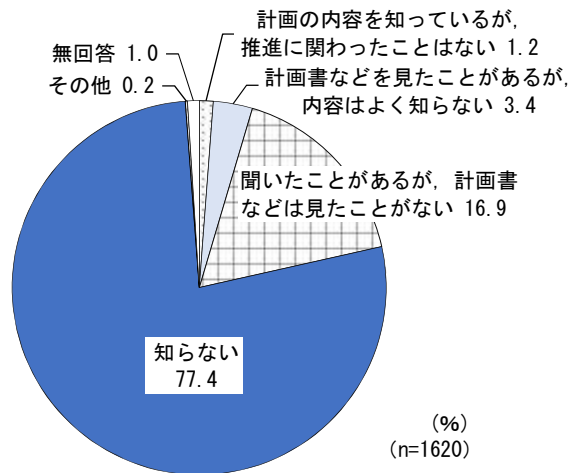
	調査数	も知 制度を知 っている 内容	容 聞いたことはあるが、 内容は知らない	知らない	無 回答
10歳代	45	4.4	42.2	<b>51.1</b>	2.2
20歳代	151	8.6	<b>55.0</b>	35.1	1.3
30歳代	210	10.0	<b>45.7</b>	42.4	1.9
40歳代	315	8.3	<b>52.7</b>	37.5	1.6
50歳代	259	11.2	<b>55.6</b>	31.7	1.5
60歳代	315	10.5	<b>55.9</b>	31.7	1.9
70歳代	213	10.3	<b>67.6</b>	18.8	3.3
80歳以上	103	11.7	<b>57.3</b>	27.2	3.9

## 4 地域福祉の推進について

### (1) 地域福祉計画の認知状況

問 24 本市は平成 29 年 3 月に「第 3 次芦屋市地域福祉計画」を策定しましたが、あなたは地域福祉計画を知っていますか。

“地域福祉計画”について、「知らない」が7割台（77.4%）を占めており、「計画の内容は知っているが、推進にかかわったことはない」は1.2%、「計画書などを見たことはあるが、内容は良く知らない」は3.4%となっている。

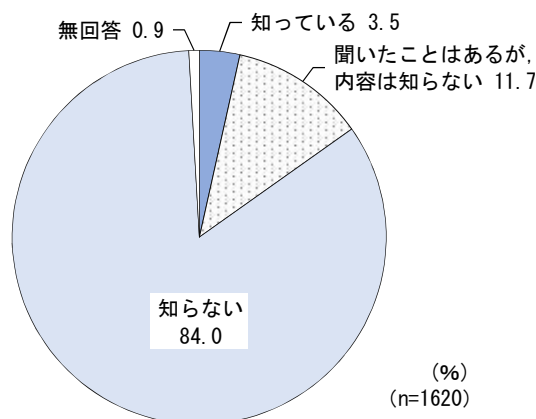


※「計画の推進や、計画に基づく活動・事業に関わっている」は0件（0.0%）のため非表示

### (2) ひとり一役活動の認知度

問 25 あなたは、地域福祉計画の中で推進している、一人ひとりが地域のために、自分のできることを行い、それぞれに役割を持って得意なことで活躍していく「ひとり一役活動」を知っていますか。

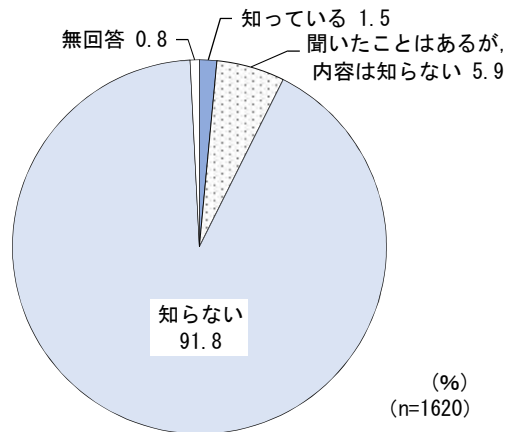
“ひとり一役活動”について、「知らない」が8割台（84.0%）を占めており、「知っている」は3.5%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」は11.7%となっている。



### (3) 地域福祉アクションプログラム推進協議会の認知度

問 26 あなたは、地域福祉計画の中で推進している、市民・社会福祉協議会・行政が協働で市民発案の地域福祉活動の取組を実践していく「地域福祉アクションプログラム推進協議会」を知っていますか。

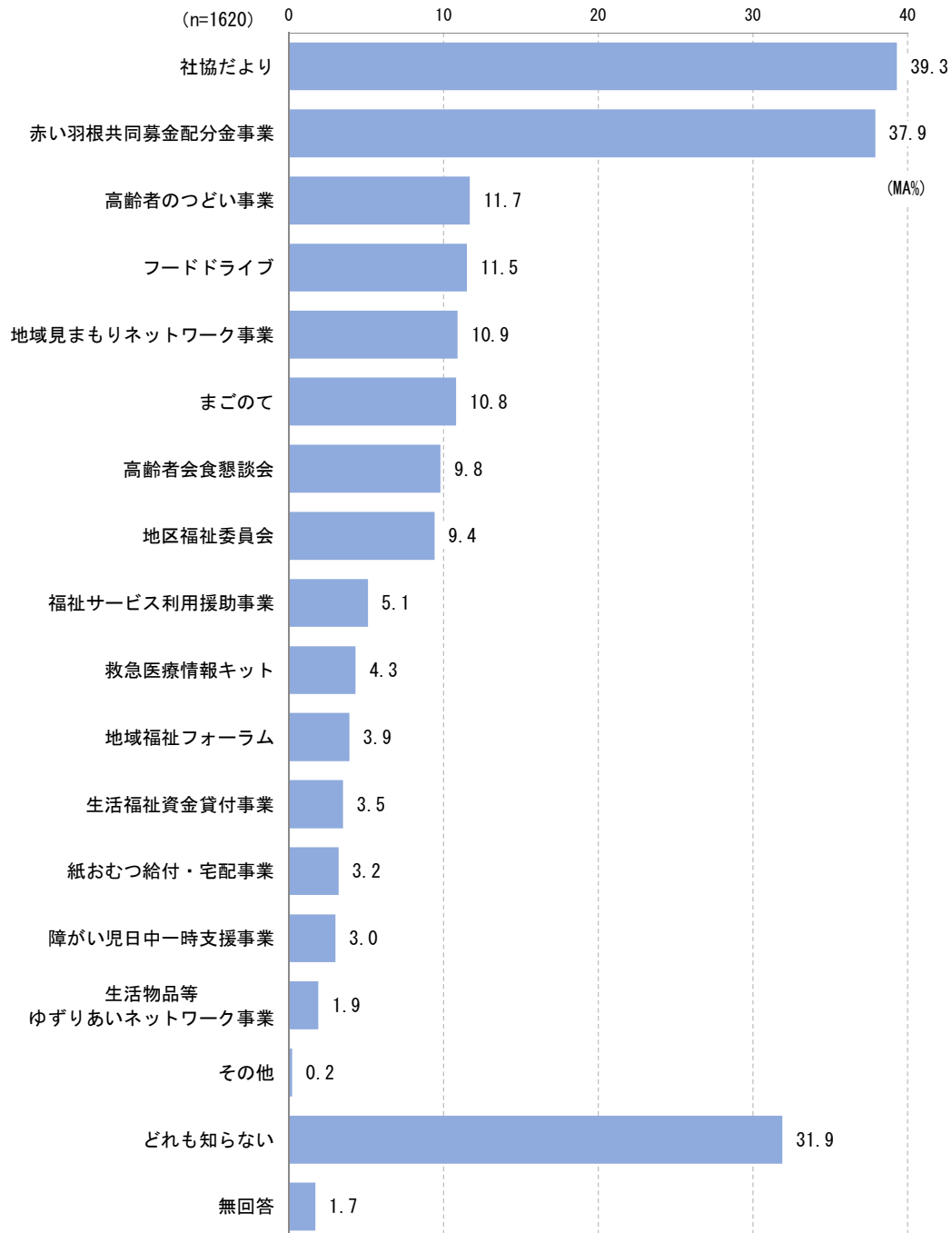
地域福祉アクションプログラム推進協議会について、「知らない」が9割台（91.8%）を占めており、「知っている」は1.5%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」は5.9%となっている。



## (4) 社会福祉協議会の事業の認知状況

問 27 社会福祉協議会が取り組んでいる地域福祉活動に関連した次の事業で、あなたの知っているものはどれですか。 <複数回答>

社会福祉協議会が取り組んでいる地域福祉活動に関連した事業のうち知っているものとしては、「社協だより」が 39.3%、「赤い羽根共同募金配分金事業」が 37.9%と多くなっている。



年齢別にみると、「社協だより」が70歳代で54.9%、80歳以上で50.5%、「赤い羽根共同募金配分金事業」が10歳代で53.3%、20歳代で44.4%と、それぞれ高い割合となっている。一方、「どれも知らない」は30歳代で43.3%と最も高くなっている。

【年齢別 社会福祉協議会の事業の認知状況】

(MA%)

	調査数	社協だより	赤い羽根共同募金配分金事業	高齢者のつどい事業	フードドライブ	地域見まもりネットワーク事業	まごのて	高齢者会食懇談会	地区福祉委員会	福祉サービス利用援助事業
10歳代	45	13.3	53.3	6.7	13.3	13.3	15.6	0.0	4.4	2.2
20歳代	151	21.2	44.4	6.0	9.9	9.3	10.6	1.3	5.3	3.3
30歳代	210	24.3	35.2	5.2	14.8	7.1	11.0	1.4	5.2	4.8
40歳代	315	38.1	38.4	7.3	16.2	14.0	9.8	3.5	5.7	4.1
50歳代	259	44.8	38.2	7.7	12.0	11.6	12.4	5.0	5.4	4.2
60歳代	315	44.1	33.3	14.6	10.5	9.8	9.5	16.2	11.1	5.4
70歳代	213	54.9	40.4	25.4	7.0	13.1	11.3	23.9	21.6	6.6
80歳以上	103	50.5	32.0	20.4	2.9	6.8	10.7	26.2	18.4	9.7

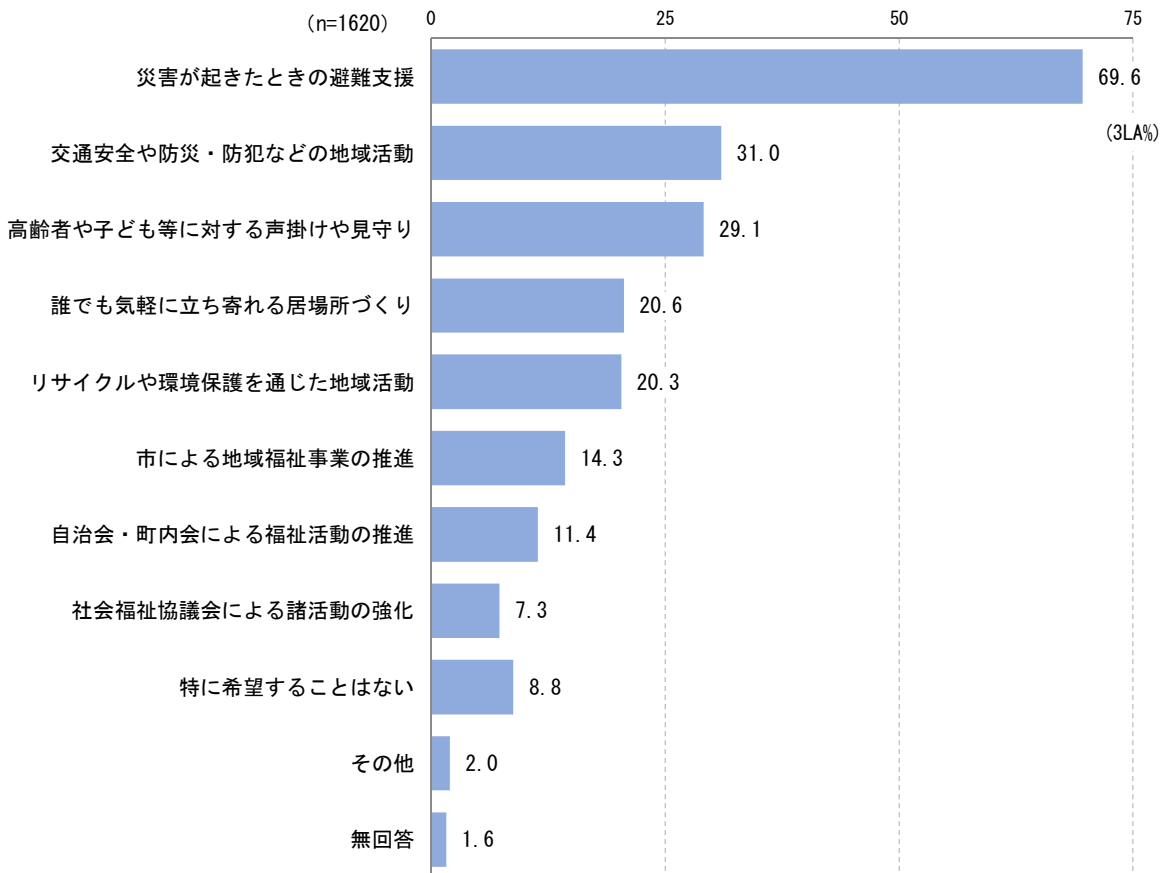
	救急医療情報キット	地域福祉フォーラム	生活福祉資金貸付事業	紙おむつ給付・宅配事業	障がい児日中一時支援事業	生活物品等ゆずりあいネットワーク事業	その他	どれも知らない	無回答
10歳代	0.0	4.4	0.0	2.2	2.2	0.0	0.0	31.1	0.0
20歳代	2.0	6.0	2.6	3.3	2.0	1.3	0.0	37.7	1.3
30歳代	1.9	3.3	3.8	3.3	4.3	2.9	0.0	43.3	1.9
40歳代	1.9	3.5	3.2	3.5	4.4	0.6	0.6	27.6	1.3
50歳代	4.2	4.2	4.2	3.1	2.7	1.9	0.0	31.3	0.4
60歳代	2.9	4.1	3.5	2.9	2.2	1.9	0.3	36.2	1.6
70歳代	12.7	4.7	5.2	3.3	2.8	3.3	0.0	21.1	3.8
80歳以上	9.7	0.0	1.9	3.9	1.9	1.9	1.0	26.2	1.0



## (5) 地域福祉計画に取り入れてほしいと思う活動

問 28 あなたが住んでいる地域の中で安心して暮らしていくために、地域福祉計画に取り入れてほしい（既にあるものも含む）と思う活動はどれですか。 <複数回答(3つまで)>

地域で安心して暮らしていくために、地域福祉計画に取り入れてほしいと思う活動としては、「災害が起きたときの避難支援」が69.6%と最も多く、次いで「交通安全や防災・防犯などの地域活動」が31.0%、「高齢者や子ども等に対する声掛けや見守り」が29.1%となっている。



年齢別にみると、どの年齢層も「災害が起きたときの避難支援」が6～7割台と最も多く、特に20歳代で76.2%と高い。また、30歳代において、「交通安全や防災・防犯などの地域活動」が41.0%、「高齢者や子ども等に対する声掛けや見守り」が38.1%と、ともに高い割合となっている。

【年齢別 地域福祉計画に取り入れてほしいと思う活動】

(3LA%)

	調査数	災害が起きたときの避難支援	交通安全や防災・防犯などの地域活動	高齢者や子ども等に対する声掛けや見守り	誰でも気軽に立ち寄れる居場所づくり	リサイクルや環境保護を通じた地域活動	市による地域福祉事業の推進	自治会・町内会による福祉活動の推進	社会福祉協議会による諸活動の強化
10歳代	45	71.1	35.6	24.4	22.2	40.0	4.4	4.4	2.2
20歳代	151	76.2	32.5	23.2	23.2	20.5	11.3	6.6	4.0
30歳代	210	70.0	41.0	38.1	19.5	17.1	11.9	8.1	5.2
40歳代	315	71.4	33.0	35.6	20.0	18.7	12.1	8.9	5.4
50歳代	259	70.3	29.3	24.7	22.0	22.8	20.8	8.5	8.9
60歳代	315	68.6	27.3	29.2	16.5	22.9	14.3	10.2	9.5
70歳代	213	65.7	27.7	24.4	24.9	16.4	16.4	17.4	7.0
80歳以上	103	66.0	25.2	22.3	20.4	16.5	15.5	32.0	13.6

	特に希望することはない	その他	無回答
10歳代	6.7	0.0	4.4
20歳代	7.9	1.3	1.3
30歳代	9.5	3.3	0.5
40歳代	9.8	1.9	0.0
50歳代	7.3	1.2	0.8
60歳代	7.9	2.5	1.9
70歳代	10.3	2.3	4.2
80歳以上	9.7	1.9	1.9

居住地域別にみると、どの地域でも「災害が起きたときの避難支援」が6～7割台と最も多く、特に打出浜小学校区で75.2%と高い。また、「交通安全や防災・防犯などの地域活動」が山手小学校区で36.2%、「高齢者や子ども等に対する声掛けや見守り」が朝日ヶ丘小学校区で39.0%と、それぞれ最も高くなっている。

【居住地域別 地域福祉計画に取り入れてほしいと思う活動】

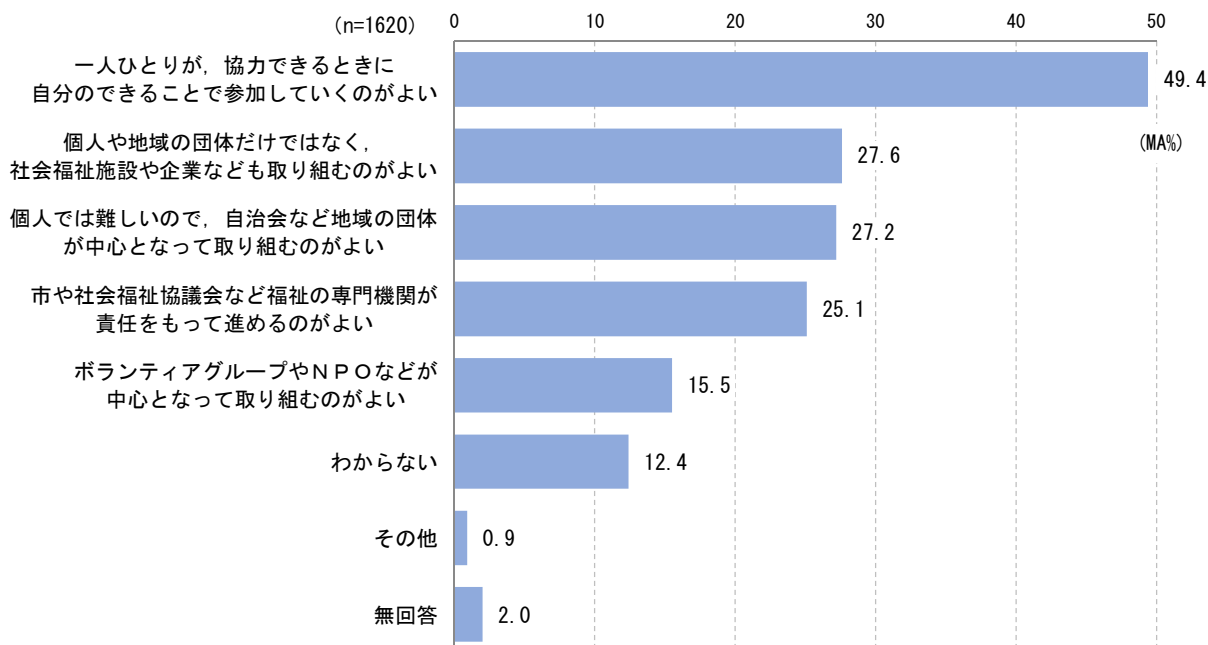
	調査数	(3LA%)							
		災害が起きたときの避難支援	交通安全や防災・防犯などの地域活動	高齢者や子ども等に対する声掛けや見守り	誰でも気軽に立ち寄れる居場所づくり	リサイクルや環境保護を通じた地域活動	市による地域福祉事業の推進	自治会・町内会による福祉活動の推進	社会福祉協議会による諸活動の強化
山手小学校区	323	71.5	36.2	28.5	16.4	21.1	16.1	14.9	7.7
朝日ヶ丘小学校区	123	66.7	27.6	39.0	23.6	28.5	10.6	7.3	10.6
岩園小学校区	253	70.4	34.0	27.3	17.8	21.7	11.9	9.1	7.1
精道小学校区	232	72.8	28.9	26.7	25.4	23.3	15.5	9.1	5.6
宮川小学校区	213	66.2	30.5	31.9	20.2	17.4	14.6	8.9	6.1
打出浜小学校区	157	75.2	34.4	27.4	22.9	17.8	13.4	12.1	4.5
潮見小学校区	160	68.8	26.3	31.9	18.8	18.8	16.9	13.8	9.4
浜風小学校区	122	62.3	24.6	23.8	24.6	12.3	17.2	12.3	9.0

	特に希望することはない	その他	無回答
山手小学校区	7.7	1.5	2.5
朝日ヶ丘小学校区	4.1	3.3	1.6
岩園小学校区	8.3	1.6	2.4
精道小学校区	7.8	3.9	0.0
宮川小学校区	11.7	1.4	0.0
打出浜小学校区	8.3	1.3	1.3
潮見小学校区	9.4	0.6	2.5
浜風小学校区	13.9	4.1	1.6

(6) 地域で支え合う福祉を進めることに対する考え

問 29 あなたは、「地域で支え合う福祉」を進めることについて、どのように思いますか。  
 <複数回答>

地域で支え合う福祉を進めることについてどのように思うかたずねたところ、「一人ひとりが、協力できるときに自分のできることで参加していくのがよい」が49.4%と最も多くなっている。



年齢別にみると、どの年齢層も「一人ひとりが、協力できるときに自分のできることで参加していくのがよい」が4～5割台と最も多く、特に60歳代で55.9%、50歳代で51.4%と高くなっている。

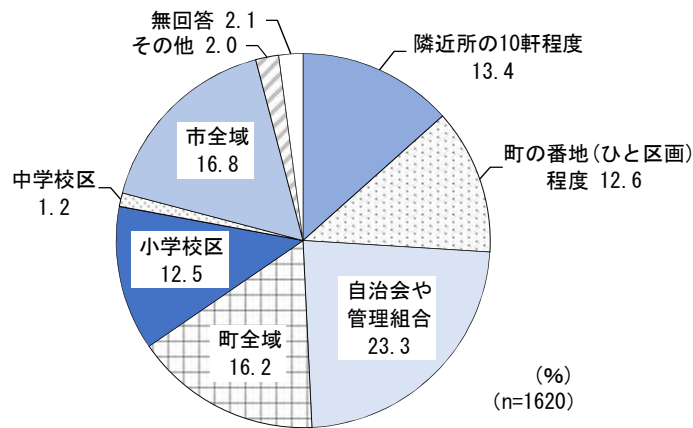
【年齢別 地域で支え合う福祉を進めることに対する考え】

	調査数	一人ひとりが、協力できるときに自分のできることで参加していくのがよい	個人や地域の団体だけではなく、社会福祉施設や企業なども取り組むのがよい	個人では難しいので、自治会など地域の団体を中心となって取り組むのがよい	市や社会福祉協議会など福祉の専門機関が責任をもって進めるのがよい	ボランティアグループやNPOなどが中心となって取り組むのがよい	わからない	その他	無回答
10歳代	45	46.7	24.4	22.2	8.9	17.8	15.6	0.0	0.0
20歳代	151	45.7	29.1	24.5	19.9	16.6	15.2	1.3	1.3
30歳代	210	44.3	32.4	31.0	23.8	16.7	11.9	1.4	0.5
40歳代	315	48.3	28.9	23.5	23.2	13.3	15.6	0.0	0.6
50歳代	259	51.4	30.1	24.3	27.4	16.2	9.3	0.8	1.5
60歳代	315	55.9	26.0	25.4	25.7	16.2	12.7	0.3	0.6
70歳代	213	48.4	24.9	34.7	31.9	13.6	10.3	1.4	6.1
80歳以上	103	46.6	16.5	35.0	27.2	17.5	10.7	2.9	6.8

(7) 地域と捉える範囲

問 30 あなたにとって支え合う・助け合う「地域」とは、どの範囲だと思いますか。

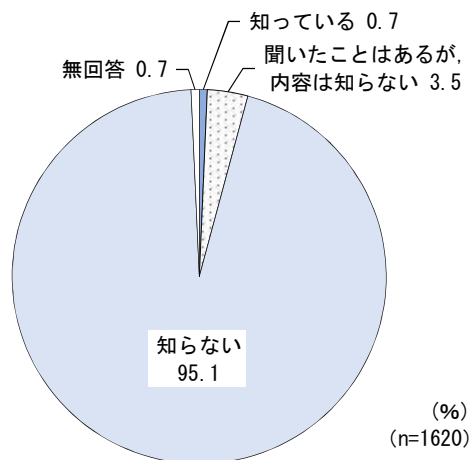
支え合う・助け合う“地域”とはどの範囲だと思うかたずねたところ、「自治会や管理組合」が23.3%と最も多く、次いで「市全域」が16.8%、「町全域」が16.2%となっている。



(8) こえる場！の認知度

問 31 あなたは、地域活動を行っている企業・社会福祉法人、地域団体等と芦屋市がつながり、様々なアイデアを実現していくための「こえる場！」の取組を知っていますか。

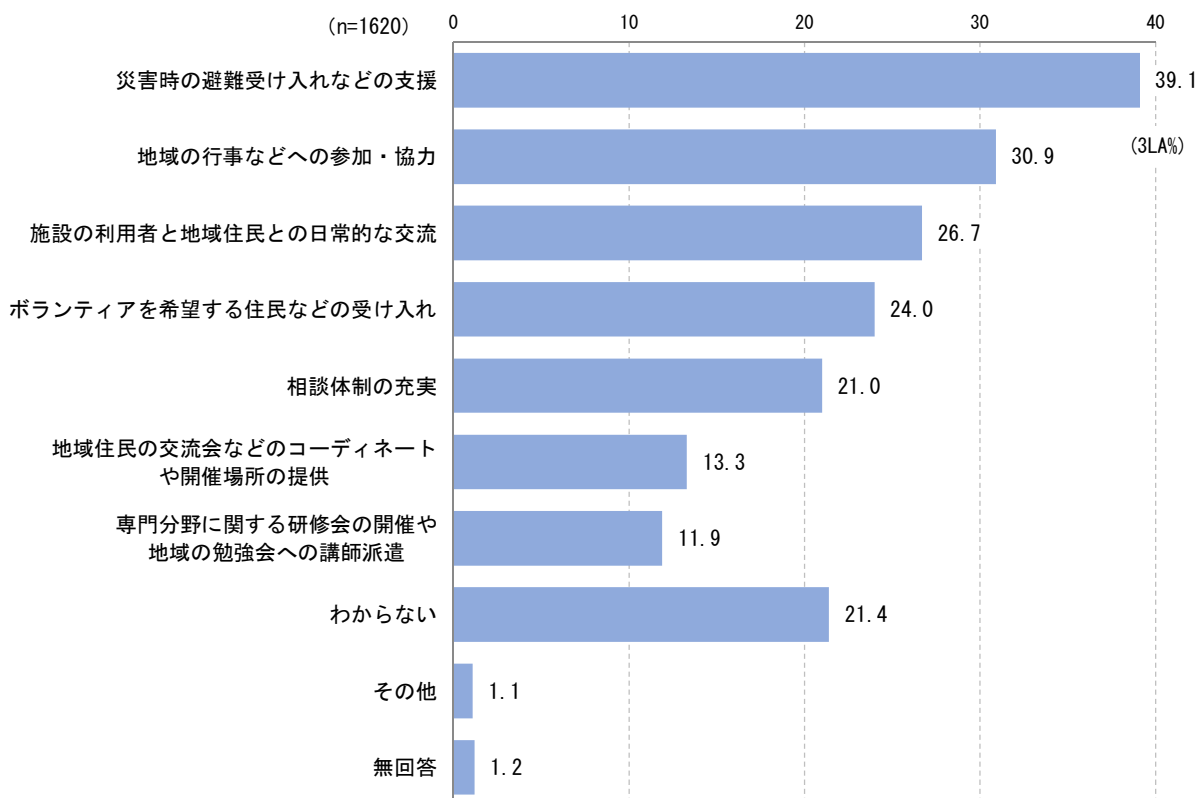
“こえる場！”の取組について、「知らない」が9割台(95.1%)を占めており、「知っている」は0.7%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」は3.5%となっている。



(9) 社会福祉法人等の関わり方に対する考え

問 32 あなたは、社会福祉法人等が運営する施設（老人福祉施設や保育所など）は地域の福祉の向上にどのように関わってほしいと思いますか。 <複数回答(3つまで)>

地域の福祉の向上にむけて、社会福祉法人等が運営する施設（老人福祉施設や保育所など）がどのように関わってほしいと思うかたずねたところ、「災害時の避難受け入れなどの支援」が39.1%と最も多く、次いで「地域の行事などへの参加・協力」が30.9%、「施設の利用者と地域住民との日常的な交流」が26.7%となっている。



年齢別にみると、10歳代では「地域の行事などへの参加・協力」が46.7%と最も多く、20歳代～80歳以上までは「災害時の避難受け入れなどの支援」が最も多く、60歳代で44.8%、70歳代で42.3%、80歳以上で43.7%と高くなっている。

【年齢別 社会福祉法人等の関わり方に対する考え】

	調査数	(3LA%)									
		災害時の避難受け入れなどの支援	地域の行事などへの参加・協力	施設の利用者と地域住民との日常的な交流	ボランティアを希望する住民などの受け入れ	相談体制の充実	地域住民の交流会などのコーディネートや開催場所の提供	専門分野に関する研修会の開催や地域の勉強会への講師派遣	わからない	その他	無回答
10歳代	45	37.8	46.7	22.2	28.9	24.4	4.4	2.2	17.8	2.2	0.0
20歳代	151	34.4	32.5	26.5	27.8	17.9	9.3	17.9	22.5	0.0	2.0
30歳代	210	38.1	32.9	24.8	22.4	18.1	12.9	16.2	21.0	1.0	1.0
40歳代	315	34.6	34.3	28.6	25.7	17.8	14.6	9.2	25.1	1.0	0.3
50歳代	259	37.8	29.0	25.9	24.7	26.3	14.3	14.7	18.9	1.2	0.4
60歳代	315	44.8	28.9	30.2	27.6	23.8	15.6	9.5	18.1	1.6	0.6
70歳代	213	42.3	24.4	23.5	18.3	19.2	15.0	10.3	24.4	1.4	3.3
80歳以上	103	43.7	32.0	25.2	10.7	21.4	5.8	10.7	22.3	1.0	2.9

居住地域別にみると、朝日ヶ丘小学校区では「地域の行事などへの参加・協力」が34.1%と最も多いものの、そのほかの地域ではいずれも「災害時の避難受け入れなどの支援」が最も多く、潮見小学校区で44.4%、精道小学校区で42.7%、岩園小学校区で40.7%と高くなっている。

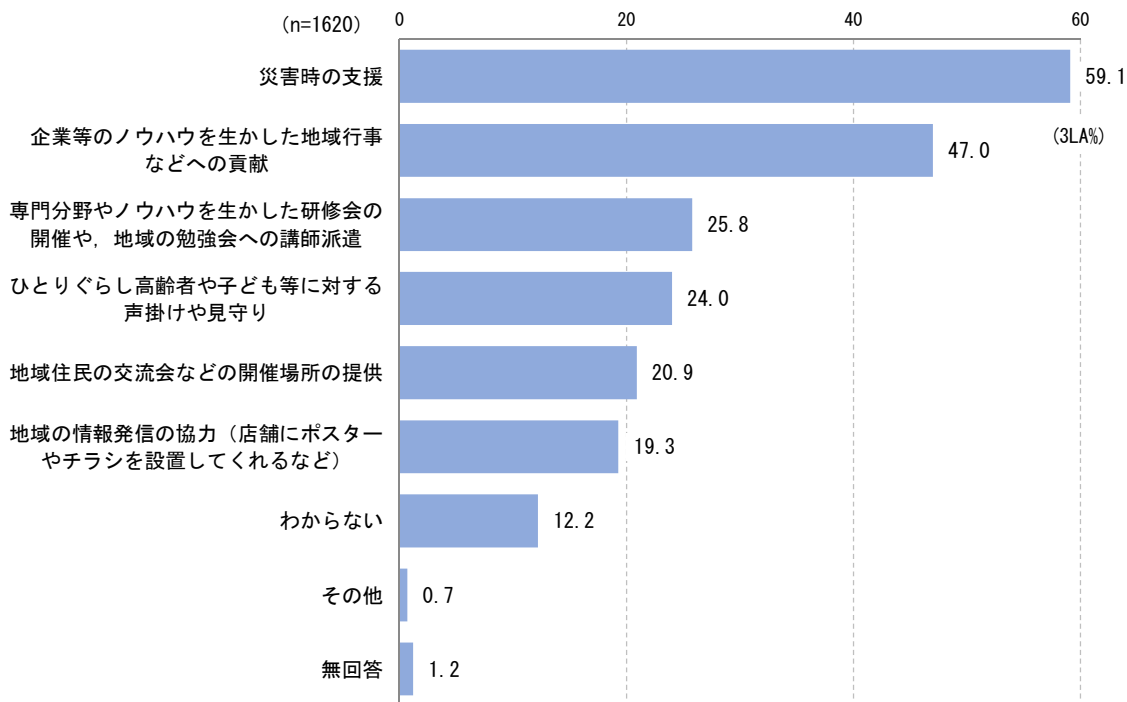
【居住地域別 社会福祉法人等の関わり方に対する考え】

	調査数	(3LA%)									
		災害時の避難受け入れなどの支援	地域の行事などへの参加・協力	施設の利用者と地域住民との日常的な交流	ボランティアを希望する住民などの受け入れ	相談体制の充実	地域住民の交流会などのコーディネートや開催場所の提供	専門分野に関する研修会の開催や地域の勉強会への講師派遣	わからない	その他	無回答
山手小学校区	323	37.8	31.9	32.5	26.3	21.7	14.6	11.8	16.7	0.9	1.5
朝日ヶ丘小学校区	123	32.5	34.1	22.8	26.8	23.6	15.4	13.8	16.3	2.4	1.6
岩園小学校区	253	40.7	28.5	24.1	25.7	19.8	12.3	12.6	20.2	2.4	1.6
精道小学校区	232	42.7	27.6	19.8	23.3	24.1	12.9	14.2	23.7	0.4	0.4
宮川小学校区	213	38.0	31.9	28.6	24.4	21.1	11.3	8.5	26.8	0.9	0.0
打出浜小学校区	157	37.6	29.9	25.5	21.7	18.5	13.4	11.5	28.7	0.6	0.0
潮見小学校区	160	44.4	34.4	29.4	20.0	16.3	14.4	13.1	17.5	0.0	3.8
浜風小学校区	122	35.2	29.5	28.7	20.5	19.7	13.1	9.8	25.4	0.8	0.8

(10) 企業や事業者の関わり方に対する考え

問 33 あなたは、企業や事業者が社会貢献として、地域福祉の推進にどのように関わっていけばいいと思いますか。 <複数回答(3つまで)>

企業や事業者が、社会貢献として地域福祉の推進にどのように関わっていけばいいと思うかたずねたところ、「災害時の支援」が59.1%と最も多く、次いで「企業等のノウハウを生かした地域行事などへの貢献」が47.0%となっている。





年齢別にみると、どの年齢層も「災害時の支援」が5～6割台と最も多く、20歳代では「企業等のノウハウを生かした地域行事などへの貢献」も53.6%と同率で多くなっている。また、80歳以上では「ひとりぐらし高齢者や子ども等に対する声掛けや見守り」の割合が34.0%と高くなっている。

【年齢別 企業や事業所の関わり方に対する考え】

(3LA%)

	調査数	災害時の支援	企業等のノウハウを生かした地域行事などへの貢献	専門分野やノウハウを生かした研修会の開催や、地域の勉強会への講師派遣	ひとりぐらし高齢者や子ども等に対する声掛けや見守り	地域住民の交流会などの開催場所の提供	地域の情報発信の協力(店舗にポスターやチラシを設置してくれるなど)	わからない	その他	無回答
10歳代	45	53.3	48.9	26.7	26.7	11.1	15.6	13.3	0.0	0.0
20歳代	151	53.6	53.6	31.1	18.5	17.9	17.2	11.9	0.7	2.0
30歳代	210	58.1	48.6	27.1	22.9	19.5	17.1	11.4	1.0	0.5
40歳代	315	56.5	51.4	29.5	23.2	20.3	19.0	12.7	0.6	0.6
50歳代	259	62.2	51.7	29.3	23.6	24.7	19.3	9.7	0.8	0.8
60歳代	315	64.1	44.8	26.0	22.5	21.3	22.2	12.1	1.3	0.3
70歳代	213	61.0	38.5	17.4	25.4	21.1	20.7	14.1	0.5	2.8
80歳以上	103	52.4	32.0	12.6	34.0	21.4	17.5	15.5	0.0	4.9

居住地域別にみると、どの地域でも「災害時の支援」が5～6割台と最も多く、特に山手小学校区で64.7%、朝日ヶ丘小学校区で62.6%、潮見小学校区で61.9%と高くなっている。

【居住地域別 企業や事業所の関わり方に対する考え】

(3LA%)

	調査数	災害時の支援	企業等のノウハウを生かした地域行事などへの貢献	専門分野やノウハウを生かした研修会の開催や、地域の勉強会への講師派遣	ひとりぐらし高齢者や子ども等に対する声掛けや見守り	地域住民の交流会などの開催場所の提供	地域の情報発信の協力(店舗にポスターやチラシを設置してくれるなど)	わからない	その他	無回答
山手小学校区	323	64.7	50.5	27.6	22.0	21.7	20.7	7.7	0.9	0.9
朝日ヶ丘小学校区	123	62.6	52.0	26.0	25.2	19.5	21.1	4.9	2.4	2.4
岩園小学校区	253	57.7	45.1	30.0	20.6	16.2	20.6	12.3	1.2	2.4
精道小学校区	232	59.9	44.0	29.3	24.1	24.6	18.1	12.9	0.4	1.3
宮川小学校区	213	52.1	43.7	23.0	27.2	25.4	16.4	16.9	0.5	0.0
打出浜小学校区	157	56.7	49.7	22.3	26.8	16.6	15.9	14.6	0.6	0.0
潮見小学校区	160	61.9	46.3	22.5	24.4	18.8	20.6	13.8	0.0	2.5
浜風小学校区	122	54.9	48.4	21.3	20.5	21.3	19.7	15.6	0.0	0.0

## 5 自由意見

問 34 本市の地域福祉に関するご意見やアイデアを自由にお書きください。

地域福祉に関するご意見やアイデアについて、306 名の方からのべ 331 件の回答が得られた。

主な意見
<b>情報発信、活動の周知について (68 件)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 福祉という言葉のイメージから高齢者や障がいのある人のためだけの活動だと思っている人が多いと感じる。"地域福祉"は誰もが相談できて参加できる活動であるということを広く周知するためにも、広報あしやで具体的な活動内容について読みやすい記事で紹介してほしい。</li> <li>● 地域福祉に関連する情報を知っている人は少ないと思う。認知度が上がれば、地域で困っている人にも声をかけやすくなり、福祉や保育についての相談もよりしやすくなると思う。</li> <li>● 日々、情報発信していると思うが、関心を持っていない（気付いていない）層に向けて、どのようにすれば接点を持たせることができるか検討していただきたい。</li> <li>● 福祉活動についての知識が皆無に等しいと改めて認識した。次世代を担う若者にはほど遠い分野だと思う。市として、情報発信や各企業等との連携などの活性化を進めてほしい。</li> <li>● 地域福祉について知っていることが少なかった。もっと市民に分かりやすく伝わるように働きかける必要があると感じた。</li> <li>● 社会福祉に関する情報をもっと気軽に知ることができる、アプリ等で見られるようにしてほしい。（若い世代も見やすく、興味を持てるような構成で）</li> <li>● 広報紙などの紙媒体もいいが、公式 LINE アカウントを作ってください、市からの情報等は LINE で手軽に見たり確認できたらいいと思う。</li> <li>● 役所に行かずとも、ウェブで情報取得と申請ができるデジタル化を進めてほしい。</li> <li>● 社会福祉協議会が取り組んでいる事業についてチラシを各戸配布するなど、もっと宣伝してほしい。</li> <li>● 「困ったケース」の事例集なども掲載すれば、同じ悩みで困っている人のヒントや参考になる。</li> </ul>
<b>交流の場・居場所づくりについて (25 件)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者が集まりやすいサロンのようなものが（地域ごとに）あれば、話をする機会があるので良いと思う。気軽に利用できる場所がたくさんあると良い。</li> <li>● 高齢者が気軽に立ち寄れて、お茶ができる場所を駅近くの商店街に作るなど、行政がかかわってほしい。そこでの雇用の創出など、町全体が明るくなるよう考えてほしい。</li> <li>● 70 才を過ぎ地域での関わりがないので、ご近所のお茶会等でご近所の方と知り合い情報交換など希望。いずれ一人となったとき不安。</li> <li>● 小さな子供を連れていける場をもっと増やしてほしい。徒歩圏内で交流の場を増やしたい。</li> <li>● 子育てする親や子ども達が交流できるイベントなどが今後できればと思う。</li> <li>● マンション住まいで近所との交流は全くない。地域のコミュニティスペースで同じような境遇の人と話をする機会（気軽に立ち寄れる場所）があればと思う。</li> <li>● 地域住民との交流が気軽にできるような体制づくり。</li> <li>● 誰でも安心して暮らせるために、ソーシャル・サポート・ネットワークづくりが不可欠。</li> <li>● 取組を行っていても実際に参加するとなると少し勇気がいると感じている。</li> </ul>

主な意見
<b>高齢者に関することについて (24 件)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢で独居の方たちへ声かけするイベントや、日常で普通の人気が気軽に組み入れるシステムをつくってほしい。お散歩同行、買い物同行、散髪など手伝ってあげたい。</li> <li>● 独居高齢者は声かけがあるだけでも安心して暮らせると思う。遠隔で安否が確認できる装置（鍵の抜き差し等）や緊急ヘルプボタンなど、市全体で効率的に見守りが出来るような仕組みがあれば理想的。</li> <li>● 高齢の夫婦世帯が、何かあったときに気兼ねなく隣家に手助けを求めることが出来るよう、公的な立場からの依頼状をクオカードか何かをつけて隣家等に渡すことができるようにする。</li> <li>● 高齢者の外出の機会をつくるため、何か少しでも役に立つことを個人の自由な時間に一人でも出来る仕事を提示し勧めてくれる所があると良い。公園の草取り、遊歩道の掃除など。</li> <li>● 介護や支援が必要になった時の手続きの分かりやすさと対応の迅速性を強化。独居高齢者が急に介護が必要になった時に手続き等を肩代わりしてくれるシステムが必要。</li> <li>● 認知症や介護を要する方の介護負担軽減やご家族の支援やサポートをもっと手厚く。</li> <li>● 福祉センターに介護浴室を設置してほしい。</li> </ul>
<b>子どもに関することについて (16 件)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 乳幼児が遊べる場所や一緒に出かけられる場所が少ないので、そういった場所やイベントが増えれば良いと思う。</li> <li>● 子どもが放課後に遊ぶ場所（野球やサッカーを自由にできる場所など）が少ない。グラウンドや施設を増やしてほしい。</li> <li>● 放課後児童クラブなど児童預かりで、“サウンドエデュケーション”を取り入れた遊びや音楽療法、絵画療法を使用した遊びを。</li> <li>● 子どもたちが農や自然、食など、本物に触れ、自分で育て、食べ、作る体験ができれば良い。</li> <li>● 虐待や生活が困窮している子育て世代、産後家庭への支援や声掛け。</li> <li>● 乳児と一緒に参加できるイベントや子育て支援センターに参加するのに朝一の電話予約が必須なのがとても煩わしく思う。</li> </ul>
<b>自治会・地域活動について (16 件)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 町内に集会所が無くて、地域住民の繋がりが希薄。</li> <li>● 現役世代では、地域の取組への参加はやりたくても難しいのが現状だと思う。</li> <li>● 地域活動に関わっていない人たちに理解してもらうのは難しいように思う。自治会などで声かけをして少しでも理解してもらうことも大事。</li> <li>● 公園の清掃や高齢者の見守りなど、自治会の活動は必要だと思うが、一部の人たちに負担がかかっており、周りは手伝う手立てもないシステムになっていると感じる。</li> <li>● 通学路の見回り等、老人にできる事もある。拾ったゴミの置き場、ゴミを入れる袋、トンゴ、手袋等簡単に入手・利用可能な方法があれば、散歩しながらゴミ拾い等ができる。</li> <li>● 自身の得意分野であれば何らかの貢献ができるといった方が他にもいらっしやるかと思う。</li> <li>● フードバンクやフードドライブのような組織があれば協力したい。</li> </ul>
<b>相談支援について (14 件)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ちょっとしたことを相談できる窓口が各所にあってほしい。市役所に行くには少し遠いし、時間が合わない時がある（閉館している）。</li> <li>● スーパーなど出掛ける機会の多い場所で週 1 回など気軽にかつプライバシーの守られる形で出張相談のような形態があればよい。</li> </ul>

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市役所に相談に行くのは敷居が高い（地域で聞きやすいところがあれば）と感じている人もいると聞く。一部の人しか福祉に引っかかかっていないように思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 広報紙にはいつも目を通しているが、機関や窓口が分散していてどこに行けば良いのか分からない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 専用のアプリなどを作って、気軽にコンタクトできるようにしてほしい。</li> </ul>
<p><b>災害・新型コロナウイルス感染症対策について（14件）</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害時に安心して避難できる仕組みを考えてほしい。また、避難先でしっかりと支援物資を供給できるようにお願いしたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 芦屋にもペットと一緒に避難できる避難場所があるのであれば公表してほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害時や重要な広報の時は、広報車の言っていることが聞き取りやすい拡声器に変えるか同じ場所を何度も言うかしてほしい。普段は何を言っているのか分からない事の方が多い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● トラブルや災害が発生した時に、気軽に相談でき（プライバシーを尊重しつつ）、助け合えるネットワークがあればと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍でも災害は突然やってくる。そういう時に連携ができるのか。市の方でご近所（10軒程度）の顔合わせや災害時の助け合い等のレクチャーの機会を作って頂けたら参加する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安価で受けられる PCR 検査をし、無症状コロナの早期発見が出来ればうれしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今はコロナワクチンと、コロナになった時に入院できるのが不安。</li> </ul>
<p><b>生活環境の整備について（14件）</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 芦屋市の海側は交通機関（バス）は充実していると思うが、山側はそうではない。山側の地区も、もう少し交通機関が充実すれば良い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市の利用場所が南にあって山の方からの利用が不便。北には施設が少ない様に思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市役所や病院などに行きやすい、ぐるぐるまわるバス、またはワンコインで行けるタクシーなど安く乗れる車などをお願いしたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 移動のしにくさは芦屋市の課題のように思う。福祉活動をするにあたっての距離的な意味でのアクセスのしやすさも重要であるように思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市内の歩道橋の多くに芦屋市役所前の歩道橋のようなエレベーターを設置したり、夜間以外には音が出る信号にしたりするなど、普段から高齢者がよく利用する場所のバリアフリー化ないしノーマライゼーション化。</li> </ul>
<p><b>ボランティアについて（10件）</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 町内の掲示板などに、もっとボランティアを募集したらよいと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生がもっと地域のボランティアに参加しやすいようになればいいと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもたち（特に小学生）の下校時などの見守りや、一人暮らしの見守り・声かけができる人を住民から募る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティアなどを希望する人を対象に講習会を行っていただきたい。その後、できることや協力したいことが見つけ出せる可能性があると思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現役を引退した人でさまざまな能力・技術力を持つ人は多くいるので、シルバー人材としてではなく、ボランティアで活躍できる場を用意し、気軽に参加できる機会や場があればよいと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢化により、自治会等のボランティア活動が難しくなっていると感じる。（一部の人にとって重い負担になっている）</li> </ul>
<p><b>障がいのある人、生活困窮者、若者への対応について（9件）</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 階段や坂が多いので、車椅子や歩行困難者が安心して暮らせるような市にしてほしい。</li> </ul>

主な意見
● 障がいのある人へのフリーWi-Fi 端末の無料貸出、歩けない、外出できない人への屋内での情報開示、無料救急ボタンの貸出など。自分が動けなくなってはじめてわかった。
● 経済的困窮者には地域で食料品など「衣食住」に関する分配を気軽に提供できる場を多く持ち、他に医療の負担を軽減できる仕組みをアナウンスする。
● 芦屋市は老人に優しい街で有難いと思うが、若い人が活躍してこそ市も街も発展する。若者が生き生きと働ける街づくりを切に願う。
● 若い人たちが住みたいと思うまちづくりが大事。それが市の魅力的なブランドを維持することにつながると思う。
● 高齢者が増えデイサービスの事業所が多すぎる。若い人も楽しめる様な事業所も増やすべき。
● ひとり暮らしの若者も利用しやすいものがあればいい。
<b>多様な主体の参加について（6件）</b>
● 幅広い世代が気軽に地域福祉へ参加できる場があると良いと思う。（例：認知症サポーター養成講座を若者向けにも実施する、10代向けのイベントを実施するなど）
● 現状の地域福祉は高齢者の集いや交流に偏っているように思われ、自治会活動なども高齢者が多くを占めている。若者の積極的な参加を推進してほしい。（例：各活動への見学での参加、ボランティアグループなどとの意見交換会など）
● 近隣の大学などと積極的に連携してはどうか。学生の中にも地域連携や社会・地域貢献の取組に興味がある人はいると思うし、その機会創出を市が中心となり担ってほしい。
● 学校ともっと協働してはどうか。デジタルデバイス、ネットをもっと積極的に活用しては。
<b>その他、福祉についてのご意見・ご提案（17件）</b>
● 子供が保育園からデイケアセンターに遊びに行かせてもらった。施設の雰囲気やスタッフの事等、小さい頃から知っておくのは地域福祉の参加へのハードルを下げるのにいい方法だと思う。教育カリキュラムに導入したらどうか。
● まずは、「健康」であることが第一。「健康づくり」のために「農業」の取り組みを推進する。身体を動かす、コミュニケーション、体力づくりや、地域活性化、商品化なども考えられる。
● ふるさと納税のように納税者が福祉について目的をもって納税ができる仕組みをつくることで、理解にもつながるのでは。もしくは寄附。活動できない方、支援したくてもできない人もいる。
● 緊急ヘルプ時にワンプッシュで発信できる端末と、援助してくれる所につながるシステムがあると安心な人は多いのではないのでしょうか。
● 多岐にわたって活動しても、予算がかかり、効果が少ない。ともかく、災害支援、高齢者保護を重点に、具体的施策を考えてほしい。
● 先進的な取り組みを行っている自治体に学び、本当に困っている市民に手を差し伸べる事をして欲しい。
<b>その他感想など（98件）</b>
● 市政、市役所へのご意見、感謝・激励など
● アンケートについて（難しい、量が多い、結果を公表してほしい、報酬があるといい、等）
● これを機に福祉への意識・関心を持ちたい
● 現状で満足している
● 特にない、わからない



## 資料編

---





# 芦屋市の新しい地域福祉計画づくりに、あなたのご意見をお聞かせください。

## 地域福祉に関する市民意識調査のお願い

みなさまには日頃より市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、本市では、誰もが自分らしく自立した生活を送ることができるように、市民、団体、事業者、行政機関などが協働して取り組むための指針として、平成18年度から「芦屋市地域福祉計画」のもと、みなさまと協働して地域福祉の向上に取り組んでいます。

このたび、新たに第4次芦屋市地域福祉計画を策定するにあたり、より多くのみなさまのご意見を施策推進に役立てるため、調査を実施いたします。

この調査は、市内にお住まいの18歳以上の方の中から、無作為に（くじ引きのような方法で）抽出した3,000人の方を対象としております。

なお、調査は無記名で、すべて統計的に処理し、回答者個人を特定することはありませんので、ありのままのお気持ちをお答えください。また、回答の内容は目的以外の用途には使用いたしません。

お忙しいところ誠にお手数をおかけいたしますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

令和3年2月 芦屋市

### 《ご回答にあたってのお願い》

◆ 次の2つの方法からいずれか1つをお選びいただき、2月26日(金)までに回答してください。

#### 1 調査票（この用紙）に直接記入し、郵送により回答

- (1) この調査は、あなた自身（封筒のあて名の方）のお考えでお答えください。なお、ご自身で記入しにくい場合は、ご家族や介助者の方などがあて名の方のご意見に基づき代筆いただきますよう、お願いいたします。
- (2) 各問で「その他」を選ばれた場合は、（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- (3) ご記入後は、同封の返送用封筒（切手不要）に入れて、ポストに投函してください。

#### 2 パソコン・スマートフォン等によりインターネットで回答

別紙「インターネットで回答される方へ」をご覧くださいご回答ください。

◆ この調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

芦屋市 福祉部 地域福祉課 TEL 38-2153 / FAX 38-2160

### 地域福祉に関する市民意識調査について

これは地域福祉についてのアンケート調査票です。英語版の調査票、または、ふりがな付きの調査票が必要な方は、芦屋市 福祉部 地域福祉課 までご連絡ください。

E-mail syakaifukusi@city.ashiya.lg.jp

### Awareness Survey on Community Wellbeing of Ashiya Citizens

If you need either an English version or a Japanese with *furigana* version of the questionnaire, please contact the office below:

Ashiya City Welfare Department Community Welfare Section

E-mail syakaifukusi@city.ashiya.lg.jp

# I あなた（回答者）ご自身についておたずねします。

問1 あなたの性別は。

- |       |       |               |
|-------|-------|---------------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 左記にあてはまらない |
|-------|-------|---------------|

問2 あなたの年齢は。

- |         |         |         |          |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 10歳代 | 2. 20歳代 | 3. 30歳代 | 4. 40歳代  |
| 5. 50歳代 | 6. 60歳代 | 7. 70歳代 | 8. 80歳以上 |

問3 あなたの同居されている家族構成は。

- |                   |          |                   |
|-------------------|----------|-------------------|
| 1. 一人暮らし          | 2. 夫婦のみ  | 3. 親と子（18歳未満の子あり） |
| 4. 親と子（18歳未満の子なし） | 5. 親と子と孫 | 6. その他（ ）         |

問4 あなたは、現在どちらの小学校区にお住まいですか。

- |                  |             |           |           |
|------------------|-------------|-----------|-----------|
| 1. 山手小学校区        | 2. 朝日ヶ丘小学校区 | 3. 岩園小学校区 | 4. 精道小学校区 |
| 5. 宮川小学校区        | 6. 打出浜小学校区  | 7. 潮見小学校区 | 8. 浜風小学校区 |
| 9. わからない（お住まいの町名 | ）           |           |           |

問5 あなたのお仕事は何ですか。主なものを1つ選んでください。

- |                |                        |
|----------------|------------------------|
| 1. 正社員・正職員     | 2. パート・アルバイト・派遣職員・嘱託職員 |
| 3. 会社の経営者・役員   | 4. 自営業・家族従事者           |
| 5. 家事専業（主婦・主夫） | 6. 学生                  |
| 7. 無職          | 8. その他（ ）              |

問6 あなたは、家族や親族以外で親しくつきあったり、困ったときには助け合える人がいますか。  
（○はいくつでも）

- |             |                |                    |
|-------------|----------------|--------------------|
| 1. 近所の人     | 2. 職場や学校の友人・知人 | 3. 市内の友人・知人        |
| 4. 市外の友人・知人 | 5. その他（ ）      | 6. 親しくつきあっている人はいない |

問7 あなたの家族に、日常生活の支援や介護が必要な方はいますか。（○はいくつでも）

- |                                  |           |
|----------------------------------|-----------|
| 1. 支援や介護が必要な高齢者（65歳以上）と同居している    |           |
| 2. 支援や介護が必要な障がいのある人と同居している       |           |
| 3. 乳幼児（概ね0歳～2歳）と同居している           |           |
| 4. 別居している家族に、支援や介護が必要な高齢者がいる     |           |
| 5. 別居している家族に、支援や介護が必要な障がいのある人がいる |           |
| 6. あなたご自身が支援や介護を必要としている          |           |
| 7. 支援や介護が必要な家族はいない               | 8. その他（ ） |

問8 あなたが暮らしの困りごとや福祉サービスのことなどで相談するのはどこ（どなた）ですか。  
（○はいくつでも）

- |                   |               |             |            |
|-------------------|---------------|-------------|------------|
| 1. 家族や親せき         | 2. 知人や友人      | 3. 職場       | 4. かかりつけ医  |
| 5. 民生委員・児童委員      | 6. 自治会        | 7. 市役所      | 8. 社会福祉協議会 |
| 9. 警察             | 10. 福祉サービス事業者 | 11. 学校園や保育所 | 12. 電話相談窓口 |
| 13. インターネット上のサービス | 14. その他（ ）    |             |            |
| 15. 相談できる相手や場所がない |               |             |            |

問9 あなたは、暮らしの困りごとや福祉サービスのことなどで相談するとき、困ると思うことがありますか。(〇はいくつでも)

1. どこに相談すればよいかわからない
2. 何を相談すればよいかわからない
3. 平日の昼間は忙しくて相談に行きにくい
4. 移動や外出が大変なので、相談に行きにくい
5. コミュニケーションに手助け(手話や通訳)が必要なので、相談に行きにくい
6. 過去に相談で嫌な思いをしたことがあるので、できるだけ相談したくない
7. その他( )
8. 特に困ることはない
9. 相談したいとは思わない

問10 あなたが暮らしの困りごとの解決や福祉サービス利用のことなどで情報を得るために、利用したことのあるインターネット上のサービスはありますか。(〇はいくつでも)

1. LINE
2. Facebook
3. Twitter
4. Instagram
5. YouTube
6. Yahoo! や Google などの検索サイト
7. 市のホームページ
8. その他( )
9. この中のサービスは利用したことがない
10. わからない

問11 あなたが新型コロナウイルス感染症の影響で困ったことは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 人と直接話す機会が減ったこと
2. 外出自粛による運動不足や体力の低下
3. 外出自粛によるストレスの増加
4. 買い物やレジャーなどの行動に制限があること
5. 施設の利用者数の制限など、活動場所が使いにくくなったこと
6. 外出自粛により家事の負担が増加したこと
7. 学習や仕事の予定が大幅に遅れたこと
8. 収入が減ったこと
9. 入院、入所中の家族や友人に会えなくなったこと
10. オンラインなどのサービスが増えたが、内容が分からずに使えないこと
11. その他( )
12. 特に困ったことはない

問12 問10で9か10に、問11で10に回答いただいた方におたずねします。どのような支援があればインターネット上のサービスを利用しようと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 家族や友人など自分のよく知っている人が、直接調べ方や使い方を教えてくれる
2. 1対1で調べ方や使い方を教えてくれる人がいる
3. 情報セキュリティについて詳しく教わる機会がある
4. 調べ方や使い方を教えてくれる講座やセミナーに参加できる
5. その他( )
6. どのような支援があっても利用しようと思わない



### Ⅲ 福祉の相談先や制度についておたずねします。

問 17 次の中で、あなたの知っているものはどれですか。(〇はいくつでも)

- |                            |                      |
|----------------------------|----------------------|
| 1. 民生委員・児童委員               | 2. 福祉推進委員(民生・児童協力委員) |
| 3. 社会福祉協議会                 | 4. 総合相談窓口(保健福祉センター内) |
| 5. 高齢者生活支援センター(地域包括支援センター) | 6. 権利擁護支援センター        |
| 7. 障がい者相談支援事業所             | 8. 子育て支援センター         |
| 9. 地域支え合い推進員(生活支援コーディネーター) | 10. ボランティア活動センター     |
| 11. どれも知らない                |                      |

問 18 あなたは、経済的に生活が困窮したときに、困りごとの解決に向けて支援(住居確保、就労支援等)するという生活困窮者自立支援制度を知っていますか。

- |                           |
|---------------------------|
| 1. 制度を知っていて、相談できる場所も知っている |
| 2. 制度は知っているが、相談できる場所は知らない |
| 3. 知らない                   |

問 19 あなたは、判断能力が十分でなくなった方を後見人などが支援するという成年後見制度を知っていますか。

- |          |                 |
|----------|-----------------|
| 1. 知っている | 2. 知らない ⇒問 23 へ |
|----------|-----------------|

問 20 問 19 で 1 に回答いただいた方におたずねします。あなた自身や家族が、認知症などにより判断が十分にできなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いませんか。

- |                     |                       |                  |
|---------------------|-----------------------|------------------|
| 1. 利用したいと思う ⇒問 21 へ | 2. 利用したいと思わない ⇒問 22 へ | 3. わからない ⇒問 23 へ |
|---------------------|-----------------------|------------------|

問 21 問 20 で 1 に回答いただいた方におたずねします。後見人などには誰になってもらいたいですか。

- |                     |                   |                 |
|---------------------|-------------------|-----------------|
| 1. 家族や親せき           | 2. 弁護士や司法書士などの専門職 | 3. 社会福祉協議会などの法人 |
| 4. 研修を受けた市民が担う市民後見人 | 5. その他( )         |                 |

⇒問 23 へ

問 22 問 20 で 2 に回答いただいた方におたずねします。利用したいと思わない理由は何ですか。

(〇はいくつでも)

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. 家族や親せきがいるので、制度を利用する必要性を感じない  |
| 2. 手続きの方法がよくわからないから             |
| 3. いくら費用がかかるかわからず、不安だから         |
| 4. 他人(家族を含む)に財産などを任せることに不安があるから |
| 5. その他( )                       |

問 23 あなたは、犯罪や非行をした人の立ち直りを社会の中で見守り、地域の力で支えていく更生保護制度を知っていますか。

- |                      |
|----------------------|
| 1. 制度を知っていて、内容も知っている |
| 2. 聞いたことはあるが、内容は知らない |
| 3. 知らない              |

#### Ⅳ 地域福祉の推進についておたずねします。

問 24 本市は平成29年3月に「第3次芦屋市地域福祉計画」を策定しましたが、あなたは地域福祉計画を知っていますか。

1. 知らない
2. 聞いたことがあるが、計画書などは見たことがない
3. 計画書などを見たことがあるが、内容はよく知らない
4. 計画の内容を知っているが、推進に関わったことはない
5. 計画の推進や、計画に基づく活動・事業に関わっている
6. その他（ ）

問 25 あなたは、地域福祉計画の中で推進している、一人ひとりが地域のために、自分のできることを行い、それぞれに役割を持って得意なことで活躍していく「ひとりー役活動」を知っていますか。

1. 知っている
2. 聞いたことはあるが、内容は知らない
3. 知らない

問 26 あなたは、地域福祉計画の中で推進している、市民・社会福祉協議会・行政が協働で市民発案の地域福祉活動の取組を実践していく「地域福祉アクションプログラム推進協議会」を知っていますか。

1. 知っている
2. 聞いたことはあるが、内容は知らない
3. 知らない

問 27 社会福祉協議会が取り組んでいる地域福祉活動に関連した次の事業で、あなたの知っているものはどれですか。(〇はいくつでも)

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 1. 地区福祉委員会             | 2. 高齢者のつどい事業      |
| 3. 障がい児日中一時支援事業        | 4. 高齢者会食懇談会       |
| 5. 救急医療情報キット           | 6. 地域見まもりネットワーク事業 |
| 7. フードドライブ             | 8. 地域福祉フォーラム      |
| 9. 福祉サービス利用援助事業        | 10. 生活福祉資金貸付事業    |
| 11. 紙おむつ給付・宅配事業        | 12. まごのて          |
| 13. 生活物品等ゆずりあいネットワーク事業 | 14. 赤い羽根共同募金配分金事業 |
| 15. 社協だより              | 16. その他（ ）        |
| 17. どれも知らない            |                   |

問 28 あなたが住んでいる地域の中で安心して暮らしていくために、地域福祉計画に取り入れてほしい（既にあるものも含む）と思う活動はどれですか。（○は3つまで）

1. 災害が起きたときの避難支援
2. 自治会・町内会による福祉活動の推進
3. 交通安全や防災・防犯などの地域活動
4. リサイクルや環境保護を通じた地域活動
5. 高齢者や子ども等に対する声掛けや見守り
6. 誰でも気軽に立ち寄れる居場所づくり
7. 市による地域福祉事業の推進
8. 社会福祉協議会による諸活動の強化
9. 特に希望することはない
10. その他（

）

問 29 あなたは、「地域で支え合う福祉」を進めることについて、どのように思いますか。（○はいくつでも）

1. 一人ひとりが、協力できるときに自分のできることで参加していくのがよい
2. 個人では難しいので、自治会など地域の団体が中心となって取り組むのがよい
3. ボランティアグループやNPOなどが中心となって取り組むのがよい
4. 個人や地域の団体だけではなく、社会福祉施設（老人福祉施設や保育所など）や企業なども取り組むのがよい
5. 市や社会福祉協議会など福祉の専門機関が責任をもって進めるのがよい
6. わからない
7. その他（

）

問 30 あなたにとって支え合う・助け合う「地域」とは、どの範囲だと思いますか。

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1. 隣近所の10軒程度 | 2. 町の番地（ひと区画）程度 |
| 3. 自治会や管理組合  | 4. 町全域          |
| 5. 小学校区      | 6. 中学校区         |
| 7. 市全域       | 8. その他（         |

）

問 31 あなたは、地域活動を行っている企業・社会福祉法人、地域団体等と芦屋市がつながり、様々なアイデアを実現していくための「こえる場！」の取組を知っていますか。

1. 知っている
2. 聞いたことはあるが、内容は知らない
3. 知らない





---

---

地域福祉に関する市民意識調査  
報 告 書

発行 芦屋市 福祉部 地域福祉課

〒659-8501

兵庫県芦屋市精道町7番6号

電話 0797-38-2153

FAX 0797-38-2160

---

---

令和3年(2021年)7月

